

大分県リハビリテーション支援センター 活動報告

<記載項目>

1. 平成23年度大分県リハビリテーション支援センター活動のまとめ
2. 平成23年度実施事業の詳細

1. 平成23年度大分県リハビリテーション支援センター活動のまとめ

月日	活動内容	派遣者
H23.4.13	第16回三者会議(由布市 湯布院厚生年金病院)	
5.9	大分県地域リハビリテーション研究会 第17回役員会(大分市)	センター長(森院長)
5.18	第9回拡大運営会議(由布市 湯布院厚生年金病院)	
6.3	大分県地域リハ調整者・地域リハ協力員連絡協議会 平成23年度第1回役員会(大分市)	MSW稲積
6.18	大分県地域リハビリテーション研究会10周年記念講演会(別府市)	日隈技師長、MSW稲積
7.1	県リハセンター・県地域リハ研究会第8回合同研修会(別府市 別府ビーコンプラザ) …地域リハ調整者・地域リハ協力員養成研修1日目を兼ねる	
7.2~3	全国地域リハビリテーション研究会研修大会inえひめ	運営部長(佐藤リハ部長)
7.7	「チーム医療実証事業」に関する事前説明会(大分市)	運営部長
7.25	「チーム医療実証事業」の内容説明及び協力要請(豊後大野市)	センター長、運営部長
7.27	竹田地域広域支援センター主催「第2回地域包括ケアシステム研修会」講師(竹田市)	日隈技師長
8.1	県リハセンター事業打ち合わせ(豊後大野市、竹田市)	センター長、運営部長
8.3	豊肥地域 H23年度第1回脳卒中地域連絡協議会作業部会(豊後大野市)	日隈技師長
8.7	第6回実用的介護・リハ技術研修会(由布市 湯布院厚生年金病院)	
8.9	H23年度 第1回大分県脳卒中回復期維持期地域連携推進協議会	センター長
9.10.	宇佐高田地域広域支援センター主催研修会	井上副院長、日隈技師長 主任PT梅野
9.21	地域リハ調整者・地域リハ協力員養成研修2日目(由布市 湯布院厚生年金病院)	
10.13	第17回三者会議(由布市 湯布院厚生年金病院)	
10.14	大分県介護予防市町村支援委員会(大分市)	センター長
10.23	第4回大分県地域リハビリテーション・ケア研究大会(別府市 別府ビーコンプラザ) 主催:県地域リハ研究会 共催:県リハセンター	
11.6	大分県地域広域支援センター主催 第19回地域包括ケアシステム研修会「認知症の方を地域で支えていくために」	日隈技師長、主任PT梅野 MSW稲積
11.16	地域リハ調整者・地域リハ協力員養成研修3日目(由布市 湯布院厚生年金病院)	
12.5	大分県介護予防会議(大分市)	センター長
12.7	第3回実務者会議(由布市 湯布院厚生年金病院)	
12.12	大分県地域リハ調整者・地域リハ協力員連絡協議会 平成23年度第2回役員会(由布市)	MSW稲積
12.17	大分県脳卒中地域連携研修会(大分市)	センター長他
12.20.	竹田地域広域支援センター主催「第3回地域包括ケアシステム研修会」シンポジスト (竹田市)	大久保副看護部長、日隈技師長 主任PT梅野
H24.1.17	H23年度 第2回大分県脳卒中回復期維持期地域連携推進協議会	センター長
1.26	豊肥地域 H23年度第3回脳卒中地域連絡協議会作業部会(豊後大野市)	日隈技師長
1.31	大分県介護予防運動機能向上研修会	センター長
2.17	大分県リハビリテーション協議会(大分市)	センター長
2.20.	大分県介護予防市町村支援委員会(大分市)	センター長
2.22	大野地域広域支援センター主催「第2回地域包括ケアシステム研修会」講師	日隈技師長
2.26	大分県地域広域支援センター主催 第20回地域包括ケアシステム研修会「お口のお手入れと安全な食べ方」	主任PT梅野
3.12	豊後大野市脳卒中協議会(豊後大野市)	センター長
3.18	第2回地域包括ケアシステム研修会(由布市 湯布院厚生年金保養ホーム)	
3.19	豊肥圏域脳卒中地域連携協議会 第1回医療と介護連絡会議(豊後大野市)	日隈技師長

※中部圏域大分地域で2カ月に1回程度開催される実行委員会へ梅野主任PTが出席している。

※大分県地域リハビリテーション研究会が開催する運営部会へ主任PT梅野またはMSW稲積が出席している。

今年度は、5.23/6.27/8.1/10.3/2.27の5回開催(いずれも大分市で開催)

※県リハセンターでは毎月第2火曜日に運営委員会を実施している。

2. 平成23年度実施事業の詳細

(1) 第16回三者会議

日 時：平成23年4月13日(水)

場 所：湯布院厚生年金病院保健学習棟 研修室

出席者：県健康対策課より藤内課長、佐藤参事、津田主幹
広域支援センター代表者

地域リハ調整者・地域リハ協力員連絡協議会より鈴木会長

主な議題：県リハセンター並びに広域支援センターのH22年度活動報告

県リハセンター並びに広域支援センターのH23年度活動計画

地域包括ケアシステム研修会に対する各圏域からの

アンケート結果報告

(2) 第9回拡大運営会議

日 時：平成23年5月12日(水)

場 所：湯布院厚生年金病院保健学習棟 研修室

出席者：県健康対策課より藤内課長、佐藤参事、津田主幹、関係団体代表者

主な議題：H22年度県リハセンター並びに広域支援センター活動報告の紹介

H23年度県リハセンター並びに広域支援センター事業計画の紹介

地域包括ケアシステムと本事業の関係、今後の展開について

地域リハ活動の普及に向けた各職能団体の取り組み等の報告

(3) 第8回合同研修会(大分県地域リハビリテーション研究会共催)

日 時：平成23年7月10日(日)

場 所：別府ビーコンプラザ 国際会議場

内 容：

①H22年度地域リハビリテーション活動報告とH23年度の事業計画

県リハセンター及び広域支援センター代表者

②講演「地域包括ケアシステム構築に向けた介護保険下のリハサービスのあり方」

講 師：霞が関南病院 理事長 斉藤正身

③講演「大分県の地域リハ支援体制整備推進事業と地域包括ケアシステム

-これまでの事業成果と今後の期待-

講 師：大分県健康対策課 課長 藤内修二

③シンポジウム「地域連携を考える～地域包括ケアシステム構築に向けた動き～」

1. 「地域リハ研究会創立10年の歩み」

大分県地域リハビリテーション研究会 会長 武居光雄

2. 「心不全患者を通しての地域連携の取り組み」

臼杵市医師会立コスモス病院 副院長 舩友一洋

3. 「認知症における医療連携について-由布物忘れネットワークの取り組み-」

佐藤医院 院長 佐藤慎二郎

参加者数：約230名



(4) 第6回目標指向的介護技術講習会

日 時：平成23年8月7日(日)

場 所：湯布院厚生年金病院 教育室

参加者数：81名

内 容：

講義1「連携の視点からリハ、看護、介護はどう取り組むべきか」

講 師：湯布院厚生年金病院 副院長 井上龍誠

講義2「ICFと目標指向的介護・リハ」

講 師：湯布院厚生年金病院 リハ部長 佐藤浩二

報告1「装具、歩行補助具の具体的活用」

講 師：湯布院厚生年金病院 理学療法士 梅野裕昭

報告2「生活環境を踏まえたADL指導」

講 師：湯布院厚生年金病院 作業療法士 矢野高正

報告3「コミュニケーション障害への上手な対応」

講 師：湯布院厚生年金病院 言語聴覚士 木村暢夫

報告4「摂食・嚥下障害への対応」

講 師：湯布院厚生年金病院 言語聴覚士 外山 稔

報告5「医科・歯科連携への取り組み

～どうして医科・歯科連携が必要なのか？～

講 師：湯布院厚生年金病院 歯科衛生士 衛藤恵美

報告6「目標指向的な視点での介護・リハにおける情報共有の現状と課題」

講 師：ケアマネジャーの立場から

在宅総合ケアセンター“ムーミン”居宅介護事業所 松尾 理
通所リハの立場から

在宅総合ケアセンター“ムーミン”通所リハ部 永徳研二

報告7「目標指向的看護・介護の実践」

講 師：湯布院厚生年金病院 看護師 古椎久美



(5) 第17回三者会議

日 時：平成23年10月12日(水)

場 所：湯布院厚生年金病院保健学習棟 研修室

出席者：県健康対策課より佐藤参事、津田主幹、広域支援センター代表者

主な議題：今年度事業の進捗状況報告

モデル図について

(モデル図：ICFの視点で地域リハケアを推進し地域包括ケアシステムを構築する

(6) 第4回大分地域リハビリテーション・ケア研究大会（県リハセンター共催）

日 時：平成23年10月23日(日)

場 所：別府ビーコンプラザ 国際会議場

参加数：227名

内 容：

基調講演「東日本大震災とリハビリテーション・ケア

・将来に向けてできること」

講師：東北大学大学院医学系研究科 障害科学専攻

機能医科学講座 内部障害学分野 教授・専攻長

東北大学病院リハビリテーション部長

内部障害リハビリ科長

上月正博

シンポジウム「災害時の専門職としての役割」

シンポジスト：

大分県医務政策課 課長 小嶋浩久

一般社団 大分県介護福祉士会 会長 三浦晃史

社団法人 大分県作業療法協会 副会長 日隈武治

社団法人 大分県看護協会 会員 疋田尚子

社団法人 大分県歯科医師会 常務理事 木村哲也

大分県臨床心理士会 会員 御手洗隆史

口述発表、ポスター発表

(7) 平成 23 年度地域リハ調整者・地域リハ協力員養成研修

日 時：平成 22 年 7 月 10 日(日)、9 月 21 日(水)、11 月 16 日(水)

場 所：(1 日目) 別府ビーコンプラザ

(2・3 日目) 湯布院厚生年金病院

2 日目内容：講義、グループワーク

講義 1「地域リハビリテーション支援体制整備推進事業の成果と
地域リハ調整者・地域リハ協力員への期待」

講師：大分県健康対策課 参事 佐藤玉枝

講義 2「地域リハビリテーション活動と地域包括ケアシステム
～地域リハ調整者・地域リハ協力員の活躍の可能性～」

講師：長崎大学医学部保健学科 松坂誠應

講義 3「県内における実践報告」(地域リハ調整者から)

講師①：豊肥保健所 健康安全企画課 副主幹 竹永祐子

講師②：中部圏域大分地域リハ広域支援センター 佐藤 暁

グループワーク「地域のネットワークの現状と課題分析

～地域の資源をいかしていくために何が必要か～」

3 日目内容：グループワーク

報告：2 日目終了から 2 ヶ月間の活動報告 (各グループより)

講義 4「社会福祉協議会の機能と役割」

講師：大分県社会福祉協議会 地域福祉課 課長 梅木豊誌

グループワーク「広域支援センター、地域包括支援センター、保健所、

社協、その他の資源はどのような連携をはかるべきか」

※今年度は 10 名の地域リハ調整者、13 名の地域リハ協力員(市町村から委託された地域包括支援センター職員の場合)が誕生し、養成総数は 279 名となった。

※養成研修におけるグループワーク内容の要約資料「養成研修グループワークのまとめ」(資料 1・2) 及び「地域リハ調整者・地域リハ協力員圏域別人数」(資料 2) を P44～P62 に添付した。





(8) 第3回実務者会議

日 時：平成23年12月7日(水)

場 所：湯布院厚生年金病院保健学習棟 研修室

出席者：県健康対策課より佐藤参事、津田主幹、広域支援センター実務担当者

主な議題：H24年度事業計画策定に向けて

(9) 第2回地域包括ケアシステム研修会

日 時：平成24年3月18日(日)

場 所：湯布院厚生年金保養ホーム 多目的ホール

参加数：157名

(内訳：医師1名、看護師7名、保健師10名、PT13名、OT9名、ST2名
社会福祉士・相談員19名、介護支援専門員26名、その他・職種不明70名)

内 容：

講義「大分県の地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み」

講師：大分県福祉保健企画課 課長補佐 前田耕作

現状報告Ⅰ：「現状と今後の取り組み」

1.大分県リハビリテーション支援センター 運営部長 佐藤浩二

2.大分県社会福祉協議会 地域福祉課 主任 吉川広明

3.中部圏域臼津地域

①臼津地域リハビリテーション広域支援センター 竹村 仁

②臼杵市地域包括支援センターコスモス 課長 久保田美代子

③臼杵市社会福祉協議会 主任 久持伸二

4.豊肥圏域竹田地域

①竹田地域リハビリテーション広域支援センター 甲斐恭子
本田浩史

②竹田市地域包括支援センター 阿南美紀

現状報告Ⅱ：「システム構築に向けた私達の活動」

- 1.大分県地域リハ調整者・協力員連絡協議会 会長 鈴木由美
- 2.大分県介護支援専門員協会 副理事長 柘 真司
- 3.大分県医療ソーシャルワーカー協会 副会長 甲斐亮太
- 4.大分県言語聴覚士協会 会長 平岡 賢
- 5.大分県作業療法協会 副会長 佐藤孝臣
- 6.大分県理学療法士協会 会長 河野礼治
- 7.大分県栄養士会 理事 濱田美紀

総合討論：「私たちは地域包括ケアシステム構築に向けて、何をすべきか」



大分県リハビリテーション支援センターに おける地域リハビリテーション関連活動報告

<記載項目>

1. 講師派遣・委員会出席等一覧
2. 転倒予防活動報告
3. 山ぼうしの会活動報告
4. 「ゆふ医科歯科連携システム」構築の成果
5. おおいた食のリハビリテーション研究会活動報告
6. 大分県訪問リハ・通所リハ研究会活動報告
7. 大分県地域リハ調整者・地域リハ協力員連絡協議会活動報告

1. 講師派遣・委員会出席等一覧

I. 転倒予防教室

派遣日	派遣先	用 務	派遣者職種
H23.8.11	湯布院町	転倒予防教室	転倒予防班
8.18	湯布院町	転倒予防教室	転倒予防班
9.12	湯布院町	転倒予防教室	転倒予防班
9.15	湯布院町	転倒予防教室	転倒予防班
10.11	湯布院町	転倒予防教室	転倒予防班
10.20	湯布院町	転倒予防教室	転倒予防班
11.18	湯布院町	転倒予防教室	転倒予防班
H24.1.24	湯布院町	転倒予防教室	転倒予防班
2.27	宇佐市院内町	転倒予防教室	転倒予防班
3.12	湯布院町	転倒予防教室	転倒予防班
3.12	宇佐市院内町	転倒予防教室	転倒予防班

II. 地域支援事業

派遣日	派遣先	用 務	派遣者職種
		地域支援事業	転倒予防班
		地域支援事業	転倒予防班

III. 研修会等の講師派遣

派遣日	派遣先	用 務	派遣者職種
H23.4.15・22	福岡県福岡市	麻生リハビリテーション専門学校へ非常勤講師「失語症Ⅳ(臨床Ⅱ)」	リハ副部長
5.14	宮崎市	九州保健福祉大学へ講師として	OT
6. 5	大分市	大分県看護協会による平成23年度教育研修会の講師	副看護部長
6.12	福岡県	第23回PT・OT・ST・研修会の講師	主任PT
6.29	湯布院町	「ふれあいいきいき健康サロン」の講師	PT
7. 4	湯布院町	中部保健所による難病患者・家族相談会における講師	主任PT
7. 5	挾間町	中部保健所による難病患者・家族相談会における講師	主任PT
7. 7	大分市	大分県看護協会による平成23年度教育研修会の講師	リハ副部長
7.19	大分市	大分県看護協会による平成23年度教育研修会の講師	看護師
7.26	別府市	大分県理学療法士会による研修会の講師	主任PT
8. 4	九重町	九重町商工会による講習会の講師「介護の基礎知識～移動・移乗介護の実際～」	リハ技師長
8. 4	大分市	大分県社会福祉介護研修センターによる研修会の講師	歯科衛生士
8.6・7・21・28	大分市	平成23年度介護支援専門員実務研修受講試験の要点整理と解説講座の講師	リハ技師長
8.29	大分市	大分県看護協会による平成23年度教育研修会の講師	看護師
8.30	豊後大野市	豊後大野市民病院の模擬患者(SP)研修会の講師	院長
9. 9	大分市	大分医学専門学校へ講師	医師
9.17	大分市	大分県看護協会による平成23年度教育研修会の講師	リハ副部長
9.27	大分市	大分県立看護科学大学へ講師として	リハ副部長
10. 7	大分市	大分県理学療法士会協会主催の研修会の講師	PT
10. 7	大分市	大分医学専門学校へ講師	医師
10.20	九重町	有限会社みなみによる研修会の講師「関節拘縮の予防について」	PT
10.26	別府市	別府大学食物栄養学科へ講師として	主任栄養士
11. 4	大分市	大分医学専門学校へ講師として	医師
11. 4	大分市	アボットジャパン(株)及びイーザイ(株)の研修会の講師	医師
11.4・5	別府市	日本リハビリテーション看護学会にて講演「医療安全とリハビリテーション」	院長
11.9・16・18	由布市	由布市健康増進課によるアクティブヘルス教室の講師	医師
11.11	大分市	大分医学専門学校へ講師として	医師
11.12	大分市	ホームヘルパー2級講義「医学の基礎知識」	院長
11.18	大分市	大分医学専門学校へ講師として	医師
11.25	大分市	大分医学専門学校へ講師として「リハビリテーション医学と関連職種」	副院長
11.29	湯布院町	武田薬品工業(株)大分営業所による「湯布院糖尿病地域連携パス勉強会」の講師	医師
12. 2	挾間町	平成23年度医学部医学科第3年次生講義	医師
12. 2	大分市	大分医学専門学校へ講師	医師
12.11	日田市	第14回大分糖尿病セミナーの講師	栄養士
H24. 1. 7	大分市	大分県中級障害者スポーツ講習会の講師「スポーツ心理学、切断のスポーツ医学について」	院長

1.13	大分市	大分医学専門学校へ講師として「リハビリテーションと福祉について」	医師
1.19	大分市	平成23年度介護支援専門員実務研修の講師	リハ技師長
1.26	日田市	大分県西部保健所による看護の地域ネットワーク推進事業 看護師長研修会の講師	副看護部長
1.27	大分市	大分医学専門学校へ「リウマチ医学」の講師	医師
2. 3	大分市	大分医学専門学校へ「心疾患、呼吸器疾患のリハビリテーションについて」の講師	医師
2. 4	大分市	大分県看護協会による第9回大分県リスクマネージャー交流会の講師	副看護部長
2.4・5	島根県益田市	島根県病院薬剤師会学術研修会の講師	薬剤部長
2. 7	大分市	平成23年度介護支援専門員実務研修の講師	リハ技師長
2.18・19	愛媛県	伊予病院へ「医療コミュニケーションの在り方」の講師	院長
2.20	延岡市	九州保健福祉大学へ講師として	ST
2.22	豊後大野市	第2回豊後大野地域包括ケアシステム研修会の講師	リハ技師長
2.25・26	大阪市	平成23年度通所系リハビリテーション研修会の講師	PT
3.8・9	熊本市	リハケアくまもと2011 ポストコングレスセミナーの講師	リハ部長
3.19	三重町	豊肥圏域脳卒中地域連携「医療と介護関係者連絡会」の講師	リハ技師長
3.23	大分市	全国健康保険協会大分支部にて講義	医師

IV. 研修会・学会、講演会等出席

派遣日	派遣先	用 務	派遣者職種
H23.4.15	大分市	大分県看護協会による社会経済福祉委員会	看護師
4.15・16	大阪府	全国回復期リハ病棟連絡協議会・理事会	リハ部長
4.15.16	東京都	NPO法人日本リハビリテーション看護学会・第95回三役、監事会	看護部長
4.16	熊本市	熊本保健科学大学へ臨床実習指導者会議	主任OT
4.16～17	沖縄県	沖縄リハ福祉学院において言語聴覚学科平成23年度臨床実習指導者会議	ST
4.16～23	宮城県	PT・OT協会依頼による東北・関東大震災のボランティア派遣	リハ技師長他1名
4.23・24	東京都	全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会・平成23年度看護検討会	看護師長
5.9～20	千葉県船橋市	平成23年度糖尿病ケア研修会	看護師
5.8～16	宮城県	東北大震災被災地へ救援活動	看護師2名
5.14	大分市	大分県看護協会による施設代表者会議	看護部長
5.14・15	東京都	平成23年度全国訪問リハビリテーション研究会第17回研究大会in東京	PT・ST
5.15	長崎県	響き合いネットワーク合同研修会inハウステンボス	PT・ST
5.21	山口県下関市	第1回ロボトリハビリテーション研究会	PT2名
5.24	大分市	平成23年度第1回大分脳卒中クリティカルパス情報交換会	看護師長他1名
5.25～26	東京都	日本医療機能評価機構による評価調査初任時研修	副看護部長
5.27～29	名古屋市	第24回日本老年泌尿器科学会	OT2名
5.27～29	宮崎市	第46回日本理学療法学会学術大会	主任PT他2名
5.30～6.10	千葉県船橋市	平成23年度がん看護研修	看護師
6.9～12	東京都	医療安全管理者養成講習会	主任看護師
6.11	福岡市	全国回復期リハ病棟連絡協議会・第24回看護、介護研修会	看護師他6名
6.11・12	福岡市	全国回復期リハ病棟連絡協議会・第2回POS委員会・第23回POS研修会運営	リハ部長他3名
6.12	福岡市	平成23年度日常生活機能評価、評価者研修会	主任看護師4名
6.14	大分市	大分県スポーツ学会・運営委員・専門委員会	PT他2名
6.17	庄内町	第2回由布地区看護ネットワーク推進会議	看護部長
6.17	挾間町	オレンジパスポートプロジェクト会議	主任看護師2名
6.18	大分市	大分県看護協会による第1回若手会員委員会	看護師
6.20	庄内町	平成23年度いきいき高齢者介護予防事業実施説明会	GT
6.23～25	京都府	第13回日本医療マネジメント学会学術総会	主任PT他3名
6.23～26	さいたま市	第45回日本作業療法学会	主任OT他2名
6.24～26	東京都	全国回復期リハ病棟連絡協議会 平成23年度第40回全職種研修会	PT・OT
6.27	由布市庄内町	第7回由布物忘れネットワーク研修会	副院長他6名
7. 2	大分市	平成23年度介護支援専門員専門課程 I 研修	主任看護師
7. 2	大分市	大分県看護協会において専門看護師及び認定看護師交流会	看護師
7.2・3	愛媛県松山市	平成23年全国地域リハビリテーション合同研修会inえひめ	リハ部長
7. 4～16	大分市	平成23年度保健師助産師看護師実習指導者講習会	看護師
7.8～10	沖縄県宜野湾市	第9回日本介護学会	CW2名
7.9・10	広島市	第23回日本嚙下障害臨床研修	主任看護師他1名
7.13～15	東京都	第61回日本病院学会	主任ST他1名
7.15・16・28・29	大分市	大分県看護協会において新人看護職員研修「研修責任者研修」	看護師長他1名
7.16・17	東京都	NPO法人日本リハビリテーション看護学会・第96回三役、監事会第4回拡大委員会	看護部長
7.18～24	大阪府大阪市	全国回復期リハ病棟連絡協議会・第3回PT・OT・ST委員会・第1期認定セラピスト養成研修会の運営	リハ部長

7.18~24	大阪府大阪市	平成23年度全国回復期リハ病棟連絡協議会・回復期セラピストマネージャーコース	主任PT他1名
7.19~8.10	神戸市	平成23年度「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」	看護師
7.23	大分市	大分県看護協会において理事・常任委員・特別委員会合同委員会	主任看護師他2名
7.23	大分市	大分県看護連盟において第4回新旧総合委員会	主任看護師他3名
7.27	大分市	第3回大分県スポーツ学会打ち合わせ	GT2名
7.29	大分市	大分県回復期リハ病棟連絡協議会研修会	看護師長他1名
7.30	大阪府大阪市	全国回復期リハ病棟連絡協議会 理事会、第2回看護委員会	リハ部長他1名
7.30	大分市	第2回大分難病研究会	PT
7.30~8.1	京都府	第36回脳卒中学会	看護師
7.31	挾間町	第23回豊の国医療コミュニケーションの集い	PT他10名
8.1~12	大分市	平成23年度保健師助産師看護師実習指導者講習会	看護師
8.2・3・27・28	大分市	平成23年度介護支援専門員専門課程 I 研修	主任看護師
8.9~10.14	大分市	社会経済福祉委員会	看護師
8.12	大分市	別府医療センター・新別府病院・鶴見病院へがん連携・在宅医療・訪問看護打ち合わせ	主任看護師他1名
8.17	大分市	平成23年度介護支援専門員実務(更新)研修打合せ会議	リハ技師長
8.19	庄内町	大分県中部保健所において第3回由布地区看護ネットワーク推進会議	看護部長
8.19	大分市	大分大学医学部・大分県立病院・大分日赤病院へがん連携・在宅医療・訪問看護打ち合わせ	主任看護師他1名
8.20	大分市	大分県看護連盟において新県役員・新支部長・新幹事長研修会	副看護部長他2名
8.20	福岡県古賀市	第34回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会	医師
8.20・21	東京都	輸血療法の危機管理体制	検査技師
8.25~27	東京都	第15回日本看護管理学会年次大会	副看護部長他1名
8.26・27	東京都	全国回復期リハ病棟連絡協議会 看護委員会	看護師長
8.27・28	鹿児島県指宿市	医療コミュニケーションin指宿	院長他1名
8.30	庄内町	第8回由布もの忘れネットワーク研修会	副院長他4名
8.30	豊後大野市	医療安全研修会	看護師長他2名
8.31	大分市	平成23年度第1回大分DMAT運営検討会議	薬剤部長
9.1~3	沖縄県宜野湾市	第22回日本末梢神経学会学術集会	医師
9.1~12.20	大分市	平成23年度認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程	看護師長
9.2~4	大阪市	全国回復期リハ病棟連絡協議会 第43回全職種研修会	MSW
9.2~4	鹿児島市	第15回日本摂食障害学会	医師
9. 3	福岡市	第50回九州MRI研究会	臨床検査技師
9.3・4	宮崎市	第5回九州心臓リハビリテーション研究会	医師他1名
9.5~16	大分市	平成23年度保健師助産師看護師実習指導者講習会	看護師
9.8~10	東京都	第13回日本災害看護学会	看護師
9.8~10	東京都	医療安全管理者養成講習会第2クール	主任看護師
9.10	宇佐市	第23年度地域リハビリテーション従事者研修会	副院長他2名
9.10	大分市	大分看護連盟において第5回総合役員会	副看護部長他3名
9.10	北九州市	第30回日本手術看護学会九州地区大会	看護師
9.11~17	大阪府	全国回復期リハ病棟連絡協議会 回復期リハビリテーション看護師認定コース	主任看護師他1名
9.14	大分市	実習指導者講習運営委員会	主任看護師
9.14~16	栃木県宇都宮市	第35回日本神経心理学総会	医師
9.15~17	大阪府大阪市	全国回復期リハ病棟連絡協議会 看護師認定研修	看護師長
9.16~18	大阪府大阪市	第42回日本看護学会 成人 I、II 学術集会	看護師2名
9.19~22	福岡市	第28回日本心電学会学術集会	医師
9.19~25	大阪府大阪市	全国回復期リハ病棟連絡協議会 第4回PT・OT・ST委員会・第1期セラピストマネージャー養成研修運営	リハ部長他2名
9.21	大分市	大分県スポーツ学会運営専門合同委員会	PT他2名
9.23~25	横浜市	第12回日本認知症ケア学会	看護師
9.27	大分市	大分県看護連盟による平成23年度県・支部別会議	副看護部長他1名
9.28	大分市	平成23年度県別リーダーセミナー	副看護部長他6名
9.29~10.1	福岡市	第39回日本磁気共鳴医学会学術大会	放射線技師
9.30~10.1	東京都	第34回リハビリテーション研究大会	主任OT他2名
9.30~10.2	熊本市	第46回九州地区医学検査学会	臨床検査技師
9.30~10.2	富山市	第38回日本脳神経看護研究学会	看護師
9.30~10.2	神戸市	第21回日本医療薬学会年会	薬剤部長
9.30~10.2	大阪市	2011年度社会福祉士基礎研修リーダー養成研修	MSW
10. 1	北九州市	九州リハビリテーション大学校において平成23年度臨床実習指導者会議	主任PT他1名
10.5・6	東京都	NPO法人日本リハビリテーション看護学会第53回理事会	看護部長
10.6・7・27・28	大分市	平成23年度新人看護職員研修「研修責任者研修」第2回目	主任看護師2名
10.7~8	東京都	全国回復期リハ病棟連絡協議会第5回PT・OT・ST委員会、第43全職種研修会	副院長他3名

10.8・9	佐世保市	第1回日本語聴覚士協会九州地区学術集会長崎大会	リハ副部长他1名
10.8	大分市	大分県看護連盟において第6回総合役員会	副看護部長他2名
10.9～24	大分市	平成23年度保健師助産師看護師実習指導者講習会	看護師
10.12	大分市	第15回大分赤十字病院医療連携フォーラム	副院長
10.13～15	福岡市	第49回日本糖尿病学会九州地方会	医師他6名
10.15～16	神戸市	固定チームナーシング全国研究集会	看護師他5名
10.19～20	東京都	主任看護師研修会	主任看護師
10.21	庄内町	第4回由布地区看護ネットワーク推進会議	看護部長
10.21	福岡市	第19回日本消化器関連学会	医師
10.22・23	大分市	第4回大分県地域リハビリテーション・ケア研究大会	副看護部長他6名
10.23	大分市	平成23年度病院総看護師長研修会	看護部長
10.26	挾間町	大分脳卒中クリニカルパス情報交換会	医師他5名
10.27～29	熊本市	リハビリテーションケア合同研究大会inくまもと2011	リハ部長他13名
10.27～30	神戸市	第39回日本放射線技師学会秋季学術大会	放射線技師
11.4～6	鹿児島市	第6回九州放射線医療技術学術大会	放射線技師
11.5	愛知県豊明市	藤田リハADL講習会(FIMを中心に)	主任OT他1名
11.5	大分市	大分県栄養士会による平成23年度実務研修会・新人研修会	栄養士
11.6～12	大阪府	全国回復期リハ病棟連絡協議会 回復期リハビリテーション看護師認定コース	看護師
11.10～13	鹿児島市	日本高次脳機能障害学会	OT他1名
11.11・12	大阪市	ソーシャルワークスキルアップ研修	MSW
11.11～13	沖縄県宜野湾市	第73回九州山口薬学大会	主任薬剤師
11.12・13	別府市	頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会	PT2名
11.12・13	鹿児島市	社会福祉士共通基盤研修第1回九州・沖縄ブロック研修	MSW
11.18・19	別府市	日本医療マネジメント学会 第10回九州・山口連合大会	看護部長他14名
11.19・20	北九州市小倉	第33回九州理学療法士・作業療法士合同学会in福岡	PT他2名
11.19・20	熊本市	第48回九州医療ソーシャルワーカー研修会くまもと大会	MSW2名
11.21～27	大阪府	全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会・平成23年度回復期セラピストマネージャーコース	主任PT他1名
11.22・23	佐世保市	日本健康・栄養システム学会第10回九州地方会長崎大会in佐世保	主任栄養士
11.24～27	さいたま市大宮	第39回日本頭痛学会総会	医師2名
11.25・26	東京都	第16回日本心療内科学会総会学術大会	医師
11.26	大分市	大分県看護協会による平成23年度「働き続けられる職場づくり～夜間勤務を科学する～」	副看護部長
11.26・27	大分市	第3回リハビリテーション4病院懇話会	副院長他8名
11.26・27	名古屋市	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会第5回大会	薬剤部長他1名
11.26・27	別府市	社会福祉士実習指導者講習会	MSW
12.2・3	京都府	バイコンユーザ・カンファレンス2011	リハ技師長他1名
12.6	大分市	大分県スポーツ学会運営・専門委員会合同会議	リハ部長他3名
12.8～10	東京都	医療安全管理者養成講習会	主任看護師
12.10	大分市	大分県看護連盟による第3回若手会員委員会	看護師2名
12.10・11	福岡県大野城市	第33回臨床動作分析研究会定例会	主任PT他2名
12.12・13	福岡市	第49回日本社会保険医学会総会	副院長他4名
12.16	庄内町	第5回由布地区看護ネットワーク推進会議	看護部長
12.17	大分市	平成23年度大分県脳卒中地域連携研修会	リハ部長
12.17	大分市	大分県看護協会による実習指導者講習運営委員会	主任看護師
12.18～20	千葉市	第19回職業リハビリテーション研究発表会	主任OT
12.23	大分市	大分県スポーツ学会 第3回学術集会	PT他4名
H24.1.8～14	大阪府	全国回復期リハ病棟連絡協議会回復期リハビリテーション看護師認定コース	看護師長他2名
1.12	大分市	リハビリテーション4病院第1回打ち合わせ会議	副院長他2名
1.14	大分市	大分県看護協会による専門看護師・認定看護師交流会	主任看護師
1.14・15	別府市	平成23年度全国訪問リハビリテーション研究会	PT・OT・ST
1.15	大分市	公認スポーツファーマシスト実務講習会	薬剤部長他1名
1.17	大分市	平成23年度大分地域介護認定審査会委員現任研修	主任OT
1.17	大分市	大分県脳卒中急性期研究会	院長
1.20	大分市	大分県回復期リハ病棟連絡協議会 研修会	看護師長他3名
1.21	大分市	平成23年度第2回難病研修会	PT・OT
1.22	大阪府	第1回セラピストマネージャー認定コース認定証授与式・講演会	主任PT他1名
1.25	大分市	大分県福祉保健部高齢者福祉課による介護予防口腔機能向上研修会	ST他2名
1.26・27	東京都	第3回医療法務セミナー	看護師長
1.27	庄内町	介護予防支援従事者研修	介護支援専門員2名
1.30	庄内町	第10回由布物忘れネットワーク研修会	リハ技師長他5名

2.3~2.5	京都府	全国回復期リハ病棟連絡協議会 第19回研究大会京都	リハ部長他15名
2. 4	別府市	第23回スーパーバイザー養成講座報告会	MSW
2. 7	大分市	大分県スポーツ学会運営・専門委員会合同会議	PT他1名
2. 9	大分市	介護予防関連事業従事者研修会	リハ技師長他2名
2.10	大分市	響き合いネットワーク連絡協議会 第4回理事会	薬剤部長
2.11	挾間町	第24回豊の国医療コミュニケーションの集い	主任看護師他7名
2.11~12	神戸市	平成23年度全国地域リハビリテーション研究会医療介護連携部会セミナー	リハ技師長
2.16~18	北九州市	第51回日本心身医学会九州地方会	医師
2.17	大分市	平成23年度大分県リハビリテーション協議会	院長
2.17	庄内町	第6回由布地区看護ネットワーク推進会議	看護部長
2.17~19	福岡市	全国回復期リハ病棟連絡協議会第48回全職種研修会	OT他3名
2.22	別府市	平成23年度実習施設連絡会議	MSW
2.22~24	神戸市	第27回日本静脈経腸栄養学会	看護師2名
2.23	大分市	第5回大分市ケアマネジメントセミナー	PT他1名
2.24~25	浜松市	聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部2011年度言語聴覚科実習指導者会議	ST
2.24~25	横浜市	日本ニューロリハビリテーション学会学術集会	医師他1名
2.26	大分市	第20回大分地域リハ広域支援センター「地域包括ケアシステム研修会」	主任PT
2.28~3.1	千葉市	第39回日本集中医療医学学会学術集会	医師
3. 2	別府市	平成23年度権利擁護・成年後見セミナー	MSW
3. 2	大分市	平成23年度大分県高次脳機能障害者相談支援体制連携調整委員会	MSW
3. 3	大分市	日本医療マネジメント学会第12回大分県支部学術集会	PT他3名
3. 7	大分市	中部圏域大分地域リハ広域支援センター 第12回連絡協議会	リハ部長
3. 9	大分市	平成23年度医事紛争講演会	看護師長
3.11	大分市	第43回九州リウマチ学会	医師
3.11	大分市	大分県看護連盟において第4回若手会員委員会並びにポリナビワークショップinおおい	看護師2名
3.16	挾間町	平成23年度結核対策専門研修会	主任看護師
3.16	大分市	大分県看護協会による社会経済福祉委員会	看護師
3.16~17	福岡市	第76回日本循環器学会学術集会	医師2名
3.18~20	つくば市	第2回HALシンポジウム	医師他2名
3.21	福岡市	ロボット産業振興会議 平成23年度成果発表会	主任PT他2名
3.23~24	東京都	平成23年度第2回リハビリテーション研修会	主任OT
3.29	大分市	第3回大分脳卒中クリニカルパス情報交換会	看護師長他2名
3.31	福岡市	第25回磁気刺激法勉強会	PT・ST

V 看護・介護実習生受け入れ

期日	内容	受け入れ先	受け入れ人数
H23.4.13~15	1年生早期体験実習	大分大学医学部医学科	11
4.18~21	2年生早期体験実習	大分大学医学部医学科	12
5.9~27	5年生実習（専攻科）	大分東明高等学校看護科	10
6.20~7.1	総合実習	大分県立看護科学大学	2
7.6~8	初期体験実習	大分県立看護科学大学	4
7.19~22	1年次基礎看護	大分大学医学部看護科	9
7.25~8.5	3年生実習	昭和学園高等学校看護学科	20
8.29~9.30	4年生実習（専攻科）	大分東明高等学校看護科	10
9.5~16	4年生総合	大分大学医学部看護科	5
10.11~21	2年生実習	昭和学園高等学校看護学科	20
11.1~12.2	3年生実習（専攻科）	大分東明高等学校看護科	10

VI.リハ実習生受け入れ

1) 理学療法

期日	学年	受入先	受入人数
H23.4.4~5.27	4学年長期実習	島根リハビリテーション学院	1
5.9~7.9	3学年長期実習	北九州リハビリテーション学院	1
5.9~7.16	4学年長期実習	熊本医療総合リハビリテーション学院	1
5.9~7.16	4学年長期実習	九州リハビリテーション大学	1
5.23~7.16	4学年長期実習	九州中央リハビリテーション学院	1
6.9~7.23	4学年長期実習	鈴鹿医療技術大学	1
6.13~7.22	4学年長期実習	福岡国際医療福祉大学 福岡リハビリテーション学部	1
6.27~8.5	4学年長期実習	熊本保健科学大学	1

7.4～8.27	4学年長期実習	九州看護福祉大学	1
7.19～9.24	3学年長期実習	麻生リハビリテーション専門学校	1
7.25～9.24	3学年長期実習	福岡国際医療福祉学院	1
8.1～10.15	3学年長期実習	藤華医療技術専門学校	1
8.15～10.16	3学年長期実習	沖縄リハビリテーション福祉学院	1
H24.2.13～2.25	3学年評価実習	大分リハビリテーション専門学校	1

2) 作業療法

期日	学年	受入先	受入人数
H23.4.11～5.21	4学年長期実習	九州保健福祉大学 保健科学部	1
4.18～6.25	4学年長期実習	県立広島大学 保健福祉学部	1
5.9～6.18	4学年長期実習	熊本保健科学大学	1
5.9～7.16	4学年長期実習	九州リハビリテーション大学校	1
5.9～7.16	3学年長期実習	藤華医療技術専門学校	1
5.9～7.2	4学年長期実習	帝京大学 福岡医療技術学部	1
6.1～10.7	3学年長期実習	医療福祉専門学校 緑生館	1
6.27～8.7	4学年長期実習	熊本医療総合リハビリテーション学院	1
7.11～8.27	4学年長期実習	長崎大学 医学部保健学科	1
7.25～9.24	3学年長期実習	北九州リハビリテーション学院	1
8.16～10.7	4学年長期実習	福岡国際医療福祉大学 福岡リハビリテーション学部	1
8.22～10.1	4学年長期実習	熊本医療総合リハビリテーション学院	1
10.17～10.29	3学年評価実習	姫路獨協大学	1
H24.1.10～1.28	3学年評価実習	熊本医療総合リハビリテーション学院	1
2.13～2.25	2学年評価実習	藤華医療技術専門学校	1

3) 言語療法

期日	学年	受入先	受入人数
H23.4.11～5.21	4学年長期実習	聖隷クリストファー大学	1
5.9～6.18	4学年長期実習	国際医療福祉大学	1
5.9～7.1	3学年長期実習	長崎リハビリテーション学院	1
5.9～6.4	3学年評価実習	大分リハビリテーション専門学校	1
5.9～7.2	3学年長期実習	沖縄リハビリテーション福祉学院	1
5.30～7.30	3学年長期実習	麻生リハビリテーション専門学校	1
6.27～8.20	3学年長期実習	大分リハビリテーション専門学校	1
7.4～8.13	4学年長期実習	福岡国際医療福祉大学 福岡リハビリテーション学部	1
7.11～9.3	3学年長期実習	沖縄リハビリテーション福祉学院	1
8.15～10.7	3学年長期実習	柳川リハビリテーション学院	1
8.29～10.7	3学年長期実習	広島県立大学	1
9.3～10.3	3学年長期実習	大分リハビリテーション専門学校	1
9.22～11.22	2学年長期実習	大阪医療技術学園専門学校	2
10.11～12.6	2学年長期実習	松江総合医療専門学校	1
10.24～12.3	3学年長期実習	九州保健福祉大学	1
H24.2.13～3.3	2学年評価実習	柳川リハビリテーション学院	1

VII. 施設見学

期日	見学受入先	見学人数
H23.5.25	九州大学病院別府病院	3
6.13	藤華医療技術専門学校 理学療法学科1学年	31
6.14	大分リハビリテーション専門学校 言語聴覚士1年生	31
6.2	藤華医療技術専門学校 作業療法学科1学年	32
6.27	福岡県古賀市加賀病院	5
6.29	福岡県歯科衛生士会	2
7.6～8	由布市立湯布院中学校 職場体験学習	4
7.19	ソウル大学学部生教員他	9
7.20～22	大分県立由布高等学校 就業体験学習	3
9.12	熊本保健科学大学 保健科学部リハビリテーション学科理学療法専攻1年	50
10.15	大分県立病院	39
10.19	霞ヶ関南病院	7

11.7	北九州リハビリテーション学院 作業療法学科	25
11.8	井野辺病院	2
11.14	北九州リハビリテーション学院 理学療法学科	36
11.17~18	大分県看護科学大学訪問看護認定看護師教育課程	2
12.6	大分三愛メディカルセンター	3
12.9	熊本病院	8
12.21	東明高等学校2年生 見学実習	49
12.27	医療法人寺沢病院	2
H24.1.3	大分県歯科衛生士会	1
3.14	健康保険南海病院	1

2. 転倒予防活動報告

1) 転倒予防教室の開催

	開催日時	場 所	対 象	参加者
1	H23年6月29日(火)	湯布院町幸野公民館	湯布院町幸野地区住民	15名
2	H23年7月7日(火)	湯布院町温湯公民館	湯布院町温湯地区住民	60名
3	H24年2月27日(月)	宇佐市農村交流センター	宇佐市住民	30名
4	H24年3月12日(月)	宇佐市農村交流センター	宇佐市住民	24名

2) 地域支援事業

	開催日時	場 所	対 象	参加者
湯布院町 (1クール目)				
1	H23年4月19日(火)	由布市社会福祉協議会 湯布院事業所	湯布院町住民	3名
2	H23年5月17日(火)	由布市社会福祉協議会 湯布院事業所	湯布院町住民	2名
湯布院町 (2クール目)				
1	H23年8月11日(木)	由布市社会福祉協議会 湯布院事業所	湯布院町住民	3名
2	H23年9月15日(木)	由布市社会福祉協議会 湯布院事業所	湯布院町住民	2名
3	H23年10月20日(木)	由布市社会福祉協議会 湯布院事業所	湯布院町住民	3名

3. 山ぼうしの会活動報告

日 時：平成 23 年 7 月 3 日

場 所：山香農業文化公園

参加数：43 名

内 容：

(午前) 食事について学ぼう～お料理カードを使用して (グループワーク)
嚥下体操をやってみよう

(午後) ストレッチ体操・棒体操
ペタンク競技
自然散策

午前の部では、実物大の料理カードを使用し、1日のメニューやお弁当のメニューを各自で選択した。その後、カードに書かれたカロリーや脂肪量、塩分量を計算し、1日量にどれだけとっているのかを各自で実際に見ることができた。「思った以上に食べている」と反省する方、「もっとバランスを考えて食べるといいね」と参加者同士で声を掛け合うなど和気あいあいの中で行われた。

午後は会場を体育館に移し、ストレッチ体操や棒体操で体をほぐし、ペタンク競技に挑んだ。初めてペタンクをやったという方も「これならどこでもできるし、楽しい。またやりたい」と感想を語ってくれた。



4. 「ゆふ医科歯科連携システム」構築の成果

(平成 23 年度厚生労働省チーム医療実証事業報告より)

【ゆふ医科歯科連携システムの構築とその概略】

歯科衛生士のリハチームへの加入を契機に、歯科領域への関心が高まったこともあり、医科と歯科が連携するシステムを構築する運びとなった。地元の歯科医師会（郡市歯科医師会）との準備委員会を通して、「ゆふ医科歯科連携実施要綱」（資料参照）を策定した上で、歯科医師会の中から希望する登録歯科医を募り、調印式にて覚書を交わし、平成 23 年 4 月より本システムがスタートした。

これまで当院への訪問歯科診療は、町内 2 名の歯科医によって行われていたが、歯科医も自らの診療の傍ら時間調整していたこともあり、来院までに 1 週間以上かかることも少なくなく、また家族との調整（説明と同意）が十分に行えず、特に診療費等のトラブルになる事例もあった。また、リハチームの一員としての介入が求められる中であって、患者の生活機能改善に向けて必要な連携が取れていたとは言い難かった。本システムは、このような問題点の改善と、医科と歯科の医療連携による相乗効果による患者のADL・QOLの向上を期待するものである。ゆふ医科歯科連携システムのイメージと基本方針を図1、図2.に示す。

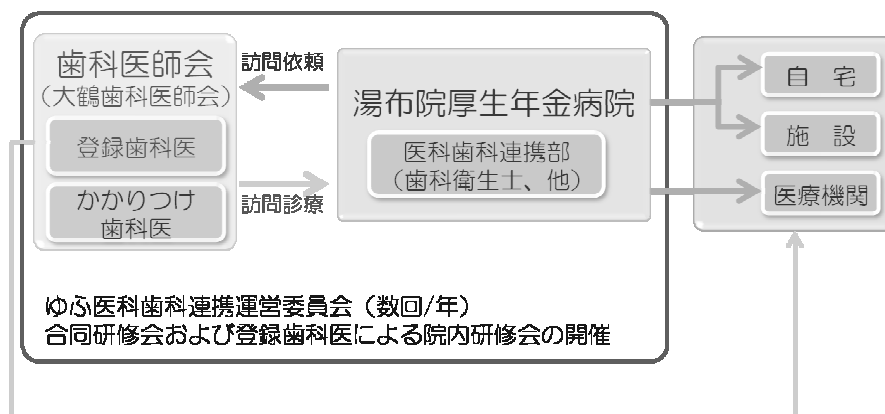


図1. ゆふ医科歯科連携システム

- ・医科-歯科連携により、入院患者の口腔疾患の改善、口腔ケアの啓発と徹底、誤嚥性肺炎および窒息事故等の発生を防止し、その後の医療を円滑に行うことに貢献するとともに、摂食・嚥下障害や口臭などに対する専門的な医療対応を当院の医師や他のスタッフの協力を得て行い、患者のQOLに貢献する。
- ・医科-歯科それぞれが完結型の在宅医療を目指すのではなく、在宅医療チームとして連携し、口腔ケア、摂食・嚥下リハビリテーションに取り組む。
- ・医科-歯科連携を前提とした在宅栄養管理の実現する。
- ・医科-歯科連携を前提とした顔の見える、地域福祉に根ざした水平的なネットワークを構築し、地域リハビリテーションや介護予防を推進する。

図2. 医科歯科連携の基本方針

【入院患者における歯科医療ニーズ】

平成23年10月から12月までの3ヶ月間に当院の回復期リハ病棟に入院した149名(平均年齢73.6±10.9歳、男性83名、女性66名)の、入院時にROAG (Revised Oral Assessment Guide) を施行した結果を図3. に示す。ROAGが9点以上で「問題あり」とされる患者は、約86%に及んでいる。その内訳は、歯・義歯の問題を呈している患者が最も多く、次いで口唇、舌と続く(図4)。また、ROAGが8点以下で「問題なし」とされた群と、9点以上の「問題あり」となった群で、バーサルインデックス(B.I)の平均得点を比較すると、口腔内に何らかの問題のある患者は、明らかに低い結果となっている(図5)。さらに、ROAGとバーサルインデックスの関係を見ると、ROAGの点数が悪い程、ADLも低くなる傾向となっている(図6)。次に、入院患者の咬合状態をアイヒナーの分類で示す(図7)。咬合支持面を持たないC群が最も多く、全体の53%に及んでいる。C群の中でもC3の上下とも無歯顎の患者が全体の24%と多くなっている。以上より、回復期リハ病棟入院患者の歯科医療ニーズは高いと考えられる。

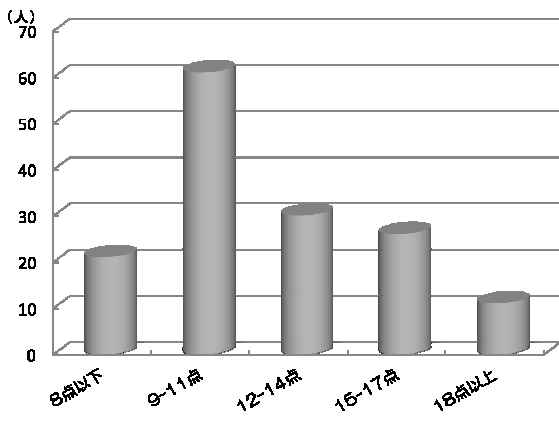


図3. 入院時のROAG結果 (合計点)

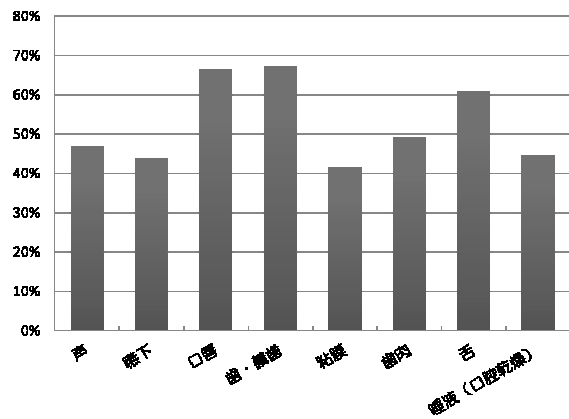


図4. 口腔内の問題の内訳 (ROAGの結果より)

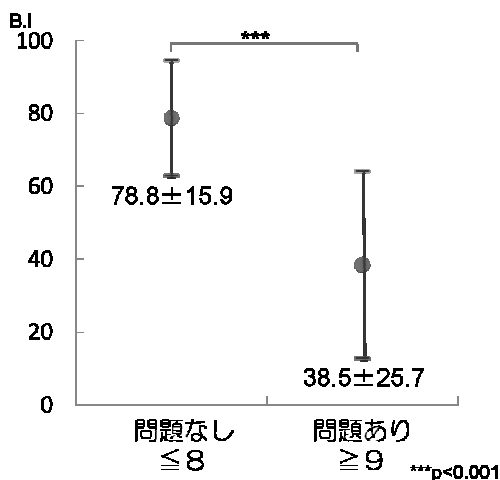


図5. ROAGの結果とB.I平均得点の違い

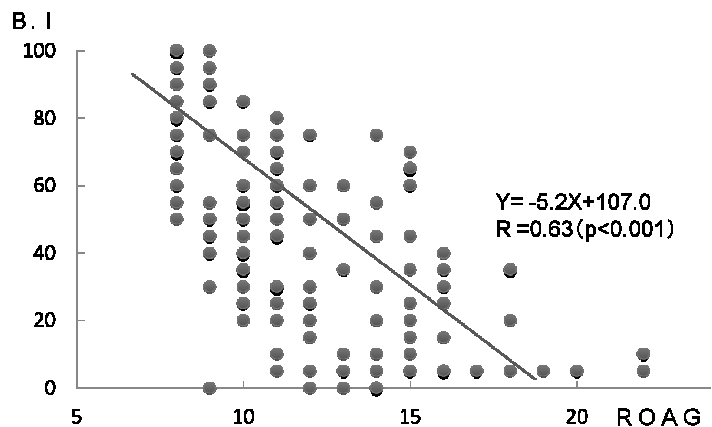


図6. ROAGとB.I得点の関係

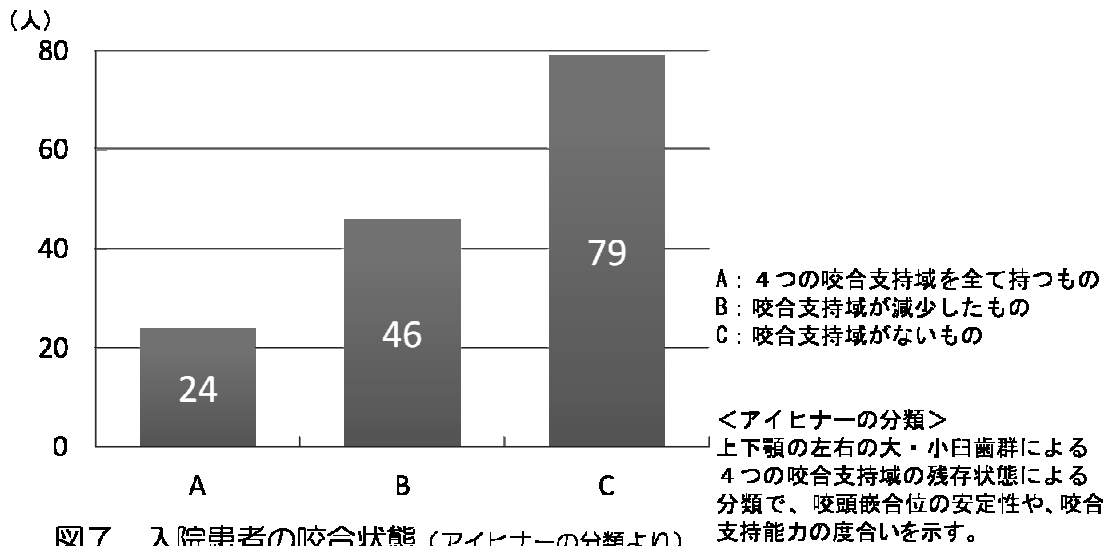


図7. 入院患者の咬合状態（アイヒナーの分類より）

【入院患者の歯科医療（口腔領域）の対応の変化】

（歯科衛生士介入及び訪問歯科診療件数の推移より）：平成22年4月より歯科衛生士が配属されリハチームの一員となった。平成22年7月～平成23年12月までの、歯科衛生士介入実績を図8.に示す。棒グラフが介入延べ人数を、折れ線は患者数（実人員）を示す。棒グラフに示すように、当初は月に約100件（一日平均約5名）であったが、現在は月に170件（一日平均約10名）に増加している。また、主治医からの歯科衛生士に対する月ごとの介入指示患者数を折れ線で示す。当初10名程度であったが、現在では約50名に増加している。これらのことは口腔領域のニーズの拾い上げと、それに対するサービスが、歯科衛生士を中心としてリハチームの中で実現できたことによると考えられる。

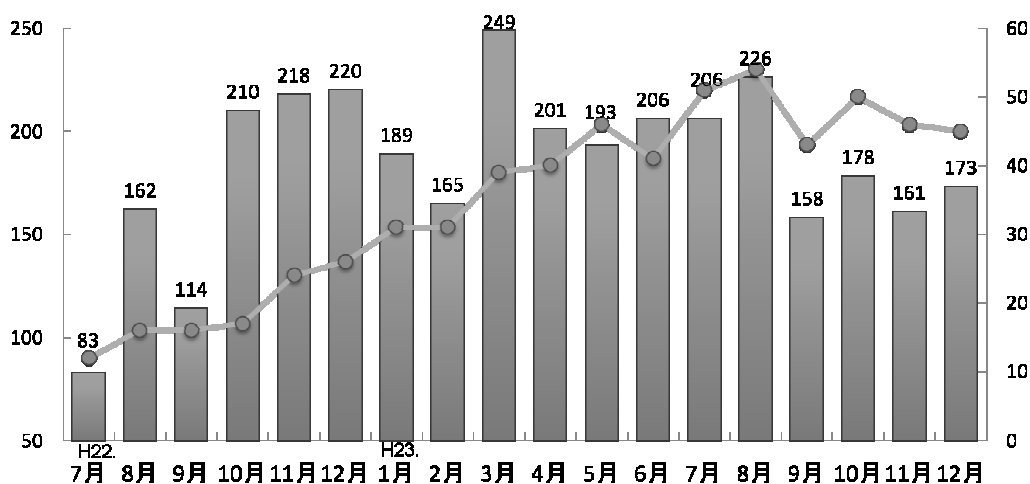


図8. 歯科衛生士の介入実績

平成22年4月から平成23年12月までの、当院への訪問歯科診療件数の推移を図9.に示す。当初、月に約20件程度であったが、現在ほぼ80件と約4倍に増加した。この要因として以下の事が考えられた。

- ①平成22年度より歯科衛生士がリハチームに加わり、スタッフの口腔領域への意識が向上した
- ②平成23年4月から、ゆふ医科歯科連携システムがスタートし、主治医から登録歯科医への訪問歯科診療依頼から診療までの流れが確立できた
- ③新たに作られた医科歯科連携部による患者の一日のスケジュール調整によって、効率的な訪問歯科診療が可能となった

次に、訪問歯科診療の診療内容を図10.に示す。義歯の調整が最も多く、次いで新義歯作成となっており、義歯に関連するものが6割に及んでいる。

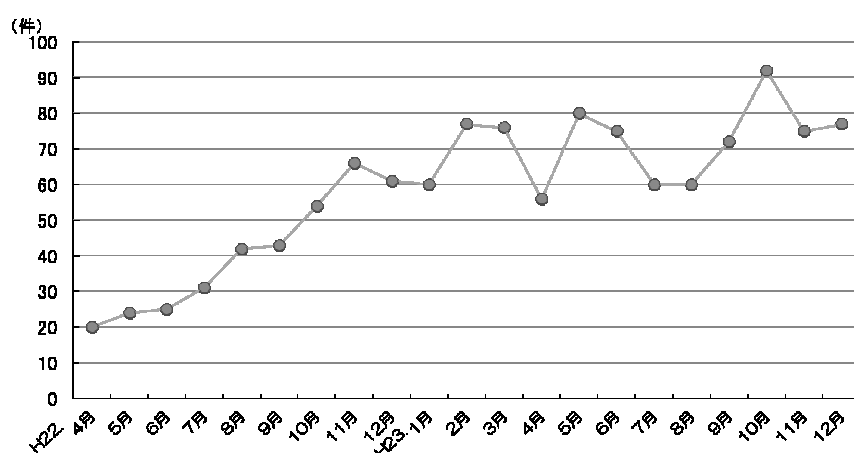


図9. 訪問歯科診療件数の推移

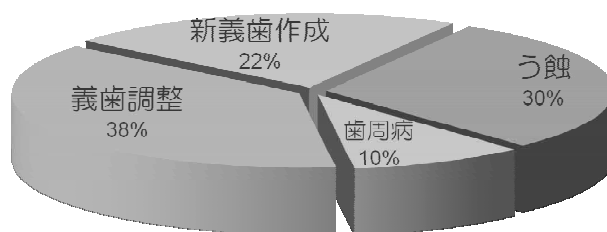


図10. 訪問歯科診療内容の内訳

【かかりつけ歯科に対する情報提供書発行数】

ゆふ医科歯科連携システムでは、訪問歯科診療介入時に歯科治療計画書を発行し患者とチーム内で治療内容等の情報共有を図っている。また、退院時には歯科治療内容を患者のかかりつけの医師及び歯科へ書面にて情報提供を行うこととなった。ゆふ医科歯科連携システムが始まって、現在まで約37%の患者の情報提供を行った。

【入院患者の口腔内問題の変化について（医科歯科連携の成果）】

前述したように、入院時に口腔内問題を抱えている患者が非常に多いことがわかった。当院の回復期リハ病棟に入院した149名の中で、平成24年1月31日までに退院した30名（当初より口腔内に問題がなかった3名は除く）のROAGの変化を示す。入院時ROAGは平均 14.4 ± 3.1 であったが、退院時には 10.9 ± 1.6 に改善している（図11.）。次に、口腔内の問題別改善度を図12.に示す。口腔粘膜、口腔乾燥、歯肉および歯・義歯の項目において改善が目立つ。これらの結果は、全て医科歯科連携の効果とは言い難いが、このシステムのスタートにより、スタッフ一人一人に対する啓発となり、一定の効果に繋がったと考えられる。

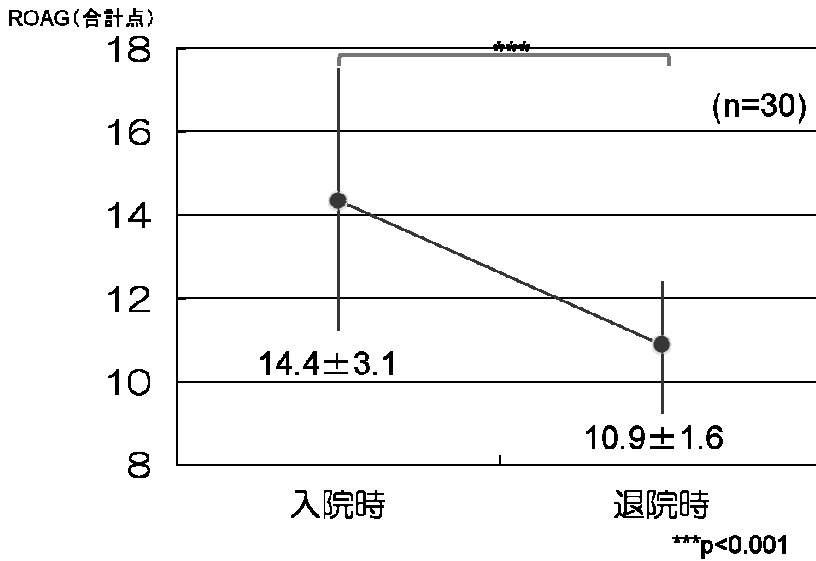


図11. 入院時と退院時のROAGの変化

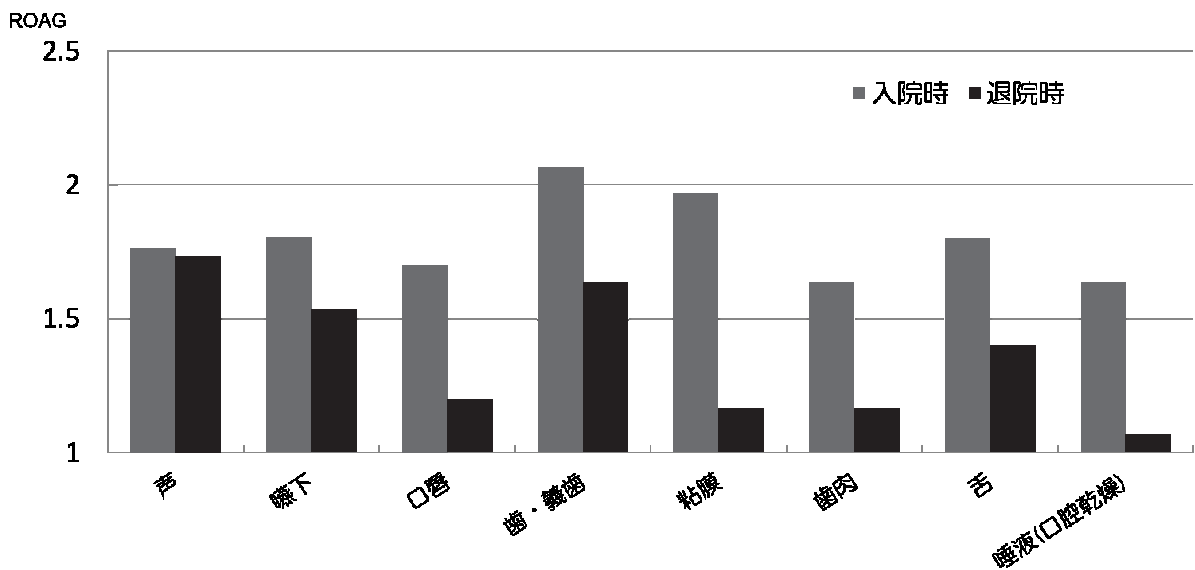


図12. 口腔内の問題別改善度 (ROAGより)

【歯科介入（新義歯作成）による咬合状態の改善と、咀嚼、口腔内の湿潤度、嚥下及び栄養に及ぼす影響】

対象は、前述の対象患者 149 名の中で、歯科介入により新たに義歯を作成し、かつ以下の検査が施行可能であった 14 名（表 1.）。方法は、歯科介入時、義歯作成直後および完成から 4 週間経過した時点での、咬合力、咀嚼力、口腔内湿潤度、ADL、嚥下機能、摂食・嚥下能力及び栄養状態の変化について測定した。咬合力の測定は、デンタルプレスケール 50 HタイプRおよびオクルーザー（FPD-703：FUJIFILM Dental Occlusion Pressuregraph）を使用、咀嚼力の評価はキシリトール咀嚼力判定ガム（LOTTE）を用い 5 段階で評価した。口腔内湿潤度の測定は、生体電気インピーダンス（BIA）法による口腔粘膜の水分測定器（口腔水分測定器ムーカス®）を用いた。ADLはバーサルインデックスを使用し、嚥下機能は反復唾液嚥下テスト（RSST）、改訂水飲みテスト（MWST）、およびフードテスト（FT）にて行った。摂食・嚥下能力は藤島の摂食嚥下能力グレードを用いた。

表 1. 対 象

全体(14名)	男性：9名	女性：5名
年齢	73.3±9.6歳(57~85)	
病名	脳梗塞：11名	脳出血：3名
麻痺側	右片麻痺：6名	左片麻痺：8名
Barthel Index	50.7±26.2(15~100)	
歯科介入期間	77.3±19.7(44~106日)	
アイヒナーの分類別人数	B2：1名 C1：2名	B3：1名 C2：2名 B4：2名 C3：6名

義歯作成前後の咬合力の変化を図 13. に示す。作成前の咬合力は平均 270.5±110.2Nであったが、義歯作成直後は 244.3±100.5Nに低下するものの作成後 4 週間経過時には 407.6±81.9Nとなっており、ほぼ正常域にまで向上している。これは作成直後では義歯の適合状態がまだ不安定なため、咬合力は低下傾向を示すものの、その後の義歯調整や口腔ケアにより口腔機能が改善したと考えられる。

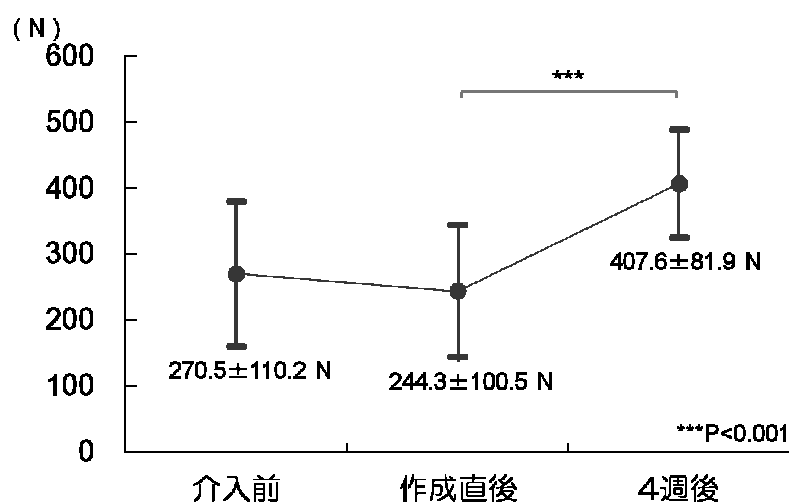


図13. 義歯作成前後の咬合力 (Force) の変化

次に、咀嚼力の変化を図14.に示す。咀嚼力判定ガムを2分間噛んでもらい、白い紙の上にガムを置き、パッケージに記載されているカラーチャートと比較し、その色の変化を5段階（緑・黄色・薄いピンク・ピンク・赤）で評価した。前述の咬合力の結果と同様に介入前と義歯作成直後の変化より、その後4週間経過した時点での変化が大きいことが分かる。これも義歯作成直後では義歯が安定せず咀嚼力も十分とは言えないが、その後の関わりを通して改善したことが分かる。

先述したごとく、入院時に口腔粘膜や歯肉の問題を示す患者が少なくない中で、入院中の患者の口腔内は口腔乾燥とのたたかいと言っても過言ではない。リハチームの中でも口腔乾燥への対応が問題なることが非常に多い。口腔内湿潤度の測定結果を図15.に示す。これは測定器のセンサーを舌背中央部に垂直になるように一定の測定圧（約200g）で圧接し測定する（約2秒）。得られたデータを図中に示すように1～5のレベルに分類した。2以下であれば口腔内が乾燥状態であることが疑われる。14症例のうち11症例で、義歯作成前もしくは4週後に口腔内湿潤度が上昇した。症例3は介入前より正常域であるが、介入前に口腔乾燥が疑われた11例（症例2, 4, 5, 6, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14）中、8例に口腔内湿潤度の上昇が確認された。症例9、14には変化が認められなかったが、2例とも降圧剤、睡眠剤、精神安定剤など薬物の影響が考えられた。症例12は嚥下障害により唾液を処理できないため高値になったと考えられる。

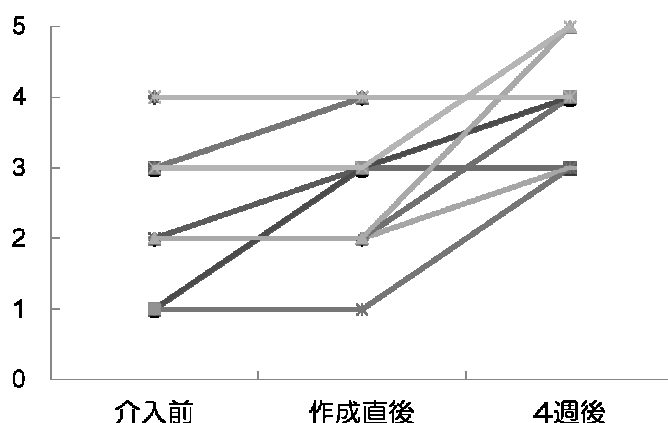


図14. 義歯作成前後の咀嚼力の変化（咀嚼力判定ガムより）

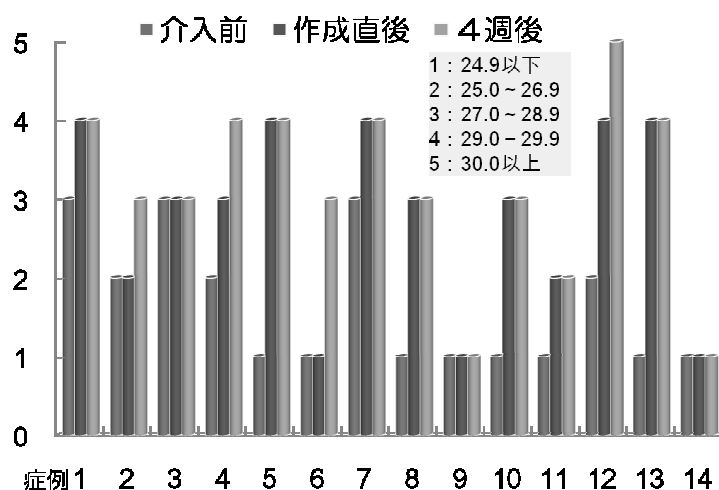


図15. 義歯作成前後の口腔内湿潤度の変化（口腔水分計ムーカスより）

摂食・嚥下機能は、反復唾液嚥下テスト（RSST）、改訂水飲みテスト（MWST）、フードテスト（FT）で検討した。歯科介入前および義歯作成4週後での変化では、いずれの検査においても殆ど変化は認められなかった。しかし、機能的変化はみられなかったものの、摂食・嚥下能力では14例中9例で改善が認められた（表2.）。6例が介入前には経口以外の補助栄養が必要であったが、その中で4例が経管から離脱できた。このことが直ちに義歯作成による効果とは言い難いが、図16. に示すように、食形態の変化をみると、主食が全粥であったものが8例から4例に減少し、反対に通常の米飯が2例しかなかったが8例に増加している。これらのことは咬合状態の改善を背景として、義歯作成が咀嚼力など口腔機能向上に寄与していると考えられた。

表2. 歯科介入前と義歯作成4週後の
摂食・嚥下グレードの変化（鎌倉のグレードより）

		義歯作成後4週のグレード									
		経口不可 (重度)		経口+補助栄養 (中等度)			経口のみ (軽度)			正常	
		2	3	4	5	6	7	8	9	10	
歯科介入前のグレード	重度	2		1							1
		3				1					
	中等度	4					1				
		5									
		6						1	1		
	軽度	7						3		1	1
		8									
		9									1
	正常	10									2

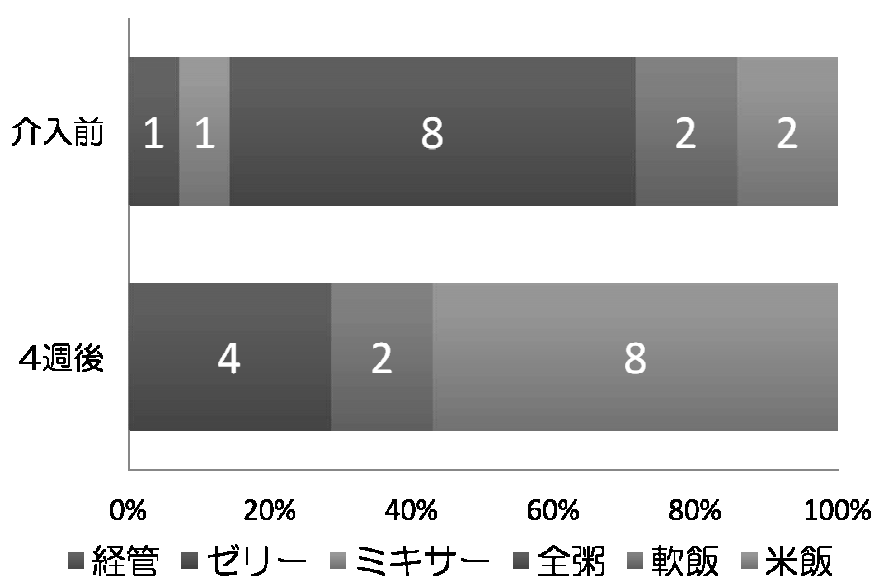


図16. 義歯作成前と作成後4週経過時の主食形態の変化

栄養状態への影響については、義歯作成前後での体重の変化は、介入前が $53.8 \pm 10.6\text{kg}$ (39~79.5kg)、義歯作成4週後は $54.2 \pm 9.6\text{kg}$ (41~74.4kg) となっており、ほとんど変化は認めなかった。しかし、アルブミン値の変化では、介入前が $3.57 \pm 0.56\text{g/dl}$ であったが、義歯作成4週後には $3.97 \pm 0.52\text{g/dl}$ に向上しており、義歯作成による咬合や嚥下など口腔機能向上を背景とした栄養状態への好影響が考えられた (図17.)。

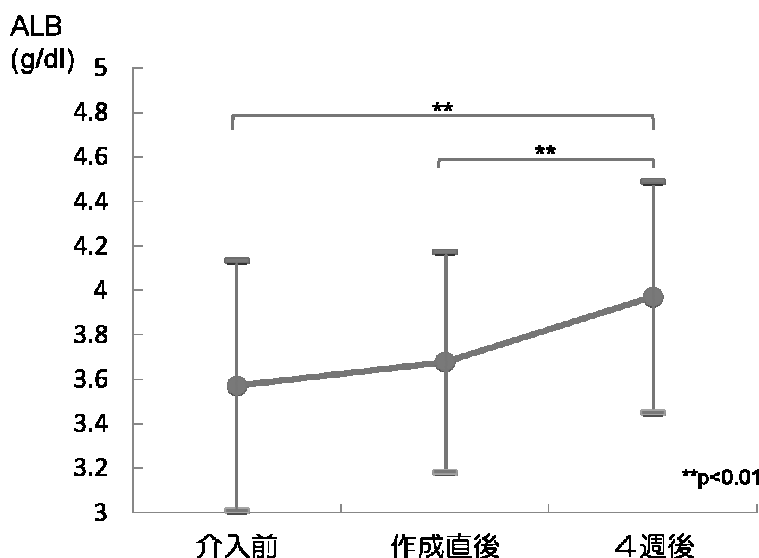


図17. 義歯作成前後のアルブミン値の変化

次に、口腔内の状態が良好な患者は、QOLも高くなると考えられるが、今回、義歯作成がQOLに影響するかを検討した。前述と同じように義歯を作成した14名の患者に対して、新たに作成した口腔内QOLに関する質問 (図18.) に答えてもらい得点化した。介入前と義歯作成4週間後の変化を図19. に示す。

		非該当	頻繁にあった	あった	ほとんどない	ない
1	食べ物がかみにくいことがありましたか?	0	1	2	3	4
2	口の中の調子のせいで食べたいものが食べられないことがありましたか?	0	1	2	3	4
3	食べ物や飲み物が飲み込みにくいことがありましたか?	0	1	2	3	4
4	口の中の調子のせいで食べ物がおいしく感じられないことがありましたか?	0	1	2	3	4
5	口の中の調子のせいでうまく話せないことがありましたか?	0	1	2	3	4
6	口の中に痛みや違和感を感じることはありませんか?	0	1	2	3	4
7	口の中の調子のせいで人前に入るのを控えることがありましたか?	0	1	2	3	4
8	口の中の調子のせいでいららすることがありましたか?	0	1	2	3	4

図18. 口腔内QOL質問紙

口腔内QOL質問紙は標準化されたバッテリーではないため、評価の妥当性には問題があるものの、図19.に示すように、少なくとも同一人物内での変化は確認された。質問7, 8での向上も認められ、義歯作成により、咀嚼力だけでなく審美的改善により心理社会的側面に対しても一定の効果があると考えられる。

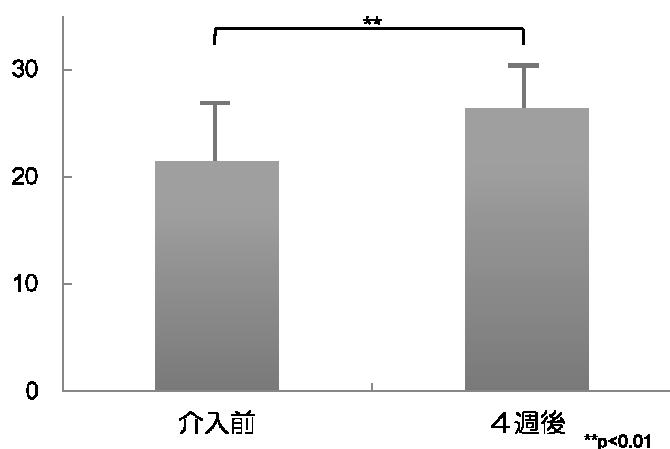


図19. 義歯作成前後の口腔内QOLの変化

【歯科介入（新義歯作成）による咬合状態が改善と、身体機能の変化】

対象は、前述した対象患者14名の中で、義歯作成前および作成後4週後に以下の方法による検査が実施可能であった6名(72.5±9.4歳、脳出血1例・脳梗塞5例)。方法は、静的バランス能力を測定する平衡機能検査と動的バランスや敏捷性などを総合した functional mobility (機能的移動力)を測定するTUG (Time up to Go) テスト、および転倒との関係が深くバランス能力を評価するFBS (Functional Balance Scale)を実施し、歯科介入時、義歯作成後4週間経過した時点で得られた結果を比較した。平衡機能検査は、重心動揺計(グラビコーダーGP-620、アニマ)にて測定し、重心動揺軌跡距離を用いた。結果を表2.に示す。FBSの得点および重心動揺計の総軌跡長において改善が認められたが、TUGでは改善傾向はあるものの統計学的に有意性は認められなかった。症例数が少ないもののこれらの結果は、咬合状態の改善が身体バランスに良い影響を与え、またADLの向上や転倒リスクの軽減などにも寄与すると考えられた。

表2. 義歯作成前後の身体機能の変化

	(x̄±SD)	
	介入前	作成4週後
FBS (Functional Balance Scale)	33.2±22.0	42.3±17.1
TUG (sec) (Time Up and Go)	20.1±17.7	15.9±12.9
重心動揺計 (cm) (総軌跡長)	97.7±52.8	74.5±41.2

* p<0.05

【医科歯科連携研修会について（フォーラム 医科歯科連携の推進に向けて）】

平成 24 年 1 月 29 日（日）9：30～13：30、大分県歯科医師会館大ホールにて医科歯科連携研修会を開催した（主催：湯布院厚生年金病院 医科歯科連携部、大鶴歯科医師会、大分県リハビリテーション支援センター）。参加者総数 264 名（歯科医師 61 名、医師 20 名、歯科衛生士 45 名、言語聴覚士 22 名、作業療法士 21 名、理学療法士 19 名、看護師・保健師 19 名、その他 57 名）、フォーラムの内容は、講演が 2 題と討論（現状報告 2 題と討論）からなり、活発な意見交換があった。この催しはマスコミにも取り上げられ、地元のテレビ 2 局（NHK 大分放送局、OBS 大分放送）のニュースで放送された。また、新聞 2 社（朝日新聞、大分合同新聞）でも記事となった（下図）。すでに、3 施設から医科歯科連携に関する施設見学の依頼もある。アンケート結果では、参加者の 8 割以上が医科歯科連携の必要性があると考えており、更なる医科歯科連携への期待が大きいことがわかった。



医科歯科連携フォーラム

医科と歯科連携を探る
 研修会で活動報告
 医療と歯科医師の関係者の連携を考える「医科歯科連携研修会」が 29 日、大分市王子新町の歯科医師会館であった。地元歯科医師会と入院患者の口腔ケアに取り組み湯布院厚生年金病院（湯布市）が活動報告をしたほか、長崎県の先駆的な事例紹介もあり、約 260 人が聴き入った。

リハビリ中心の同病院は昨春に大分、由布町の医療法人社団と「ゆふ医科歯科連携」を締結。常勤歯科衛生士が 5 人の登録歯科医師の補佐となり、計画的な治療を進めている。研修会では、患者に迅速な対応が可能になったことや同院職員が口腔ケア技術が向上したことなどの成果のほか、退院した人のフォローに課題があることなどが報告された。同病院の森照明院長は「口腔ケアをしながら長くつなぐことを客観的なデータで示せば、患者の励みになる」と話していた。（大分県）

大分 2012 年（平成 24 年）2 月 4 日 土曜日

医科歯科の連携を
口腔ケアへの意識向上
相互理解不足が課題に

大分市でフォーラム
 湯布院厚生年金病院と大分県リハビリテーション支援センターが主催する「医科歯科連携研修会」のフォーラムが 29 日、大分市王子新町の歯科医師会館であった。地元歯科医師会と入院患者の口腔ケアに取り組み湯布院厚生年金病院（湯布市）が活動報告をしたほか、長崎県の先駆的な事例紹介もあり、約 260 人が聴き入った。

朝日新聞（平成 24 年 1 月 30 日）

大分合同新聞（平成 24 年 2 月 4 日）

5. おおいた食のリハビリテーション研究会 活動報告

おおいた食のリハビリテーション研究会の平成23年度の事業報告を以下に示します。尚、平成24年5月現在の会員数は172名となっております。

<本年度研究会活動報告>

おおいた食のリハビリテーション研究会 第9回研修会

日 時：平成23年8月21日(日)

場 所：大分県社会福祉介護研修センター

9:00 ～ おおいた食のリハビリテーション研究会事業・決算報告

9:40 ～ 研究報告会

座長：おおいた食のリハビリテーション研究会

世話人 森淳一

世話人 三浦晃史

1. 精神科病棟NSTでの歯科衛生士の取り組み
医療法人雄仁会 加藤病院 口腔ケア課 歯科衛生士 金子良美
2. 「美味しく食べて華齢に生きる～豊後高田市介護二次予防事業～」
豊後高田市社会福祉協議会地域福祉係 歯科衛生士 青木利美
3. 回復期リハビリテーション病棟の歯科衛生士の役割
湯布院厚生年金病院 歯科衛生士 衛藤恵美
4. 大分県内の回復期リハビリテーション病棟における医科歯科連携の実状
湯布院厚生年金病院 言語聴覚士 岡崎春香
5. 在宅復帰した摂食嚥下障害者について
湯布院厚生年金病院 言語聴覚士 井上洋介
6. 低栄養から脱却し、嚥下機能・活動量の向上に繋がった症例を担当して
湯布院厚生年金病院 言語聴覚士 小前晶子
7. デイサービスにおける口腔機能向上・栄養改善サービスの取組み～併用した症例を通して
在宅リハケアセンターかく 地域NST 市原美紀

第5回摂食・嚥下セミナー(共催 大分県社会福祉介護研修センター)

目的：人間の活力の源である「食事」は、おいしく口から食べるという楽しさだけではなく、脳を刺激し生きる喜びにも繋がります。しかし、病院や施設、在宅では「食」に関する何らかの問題を抱えている方は数多く、多職種協働のケアにおいては大きな課題となっています。そこで、摂食・嚥下機能の専門家による知識と技術を学んでいただき、チームとして質の高い支援を提供できる人材を育成するために開催します。

- 日 時：1日目 6月24日(金) 嚥下のメカニズム、対応と支援
2日目 7月1日(金) 評価・観察と看護の視点
3日目 7月17日(日) 心理と接し方、姿勢・呼吸
4日目 7月24日(日) 摂食嚥下リハ(間接・直接訓練)、口腔について
5日目 8月3日(水)・8月4日(木)
摂食嚥下リハ(口腔ケア)、栄養管理
6日目 8月17日(水)・8月18日(木)
嚥下食・介護、安全な食べさせ方
7日目 8月26日(金) グループワーク
※5日目6日目の実習は2班編成に分かれます。

対象者：介護福祉士、ホームヘルパー、看護師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、栄養士、歯科衛生士、調理員等
会 場：大分県社会福祉介護研修センター 小ホール

共 催：大分県社会福祉介護研修センター、おおいた食のリハビリテーション研究会

おおいた食のリハビリテーション研究会 第10回 研修会・講演会・交流会

日 時：平成23年3月4日(日)

場 所：大分県社会福祉介護研修センター

9:00 ～ 受付

10:00 ～ 「嚥下障害を診る上で大切なこと～科学的な診断の意義～」

講師： 山部歯科医院 院長 長崎嚥下リハビリテーション研究会 代表
山部 一美

12:00 ～ 研修・交流会

評価・訓練方法の実演・体験コーナー、
嚥下食の紹介と作り方コーナー、口腔ケアの実演と体験コーナー、
食べ方・食べさせ方の実演コーナー、
姿勢・ポジショニングコーナー、相談コーナー、
その他関連企業展示など

13:30 ～ 終了



広報誌「おおいた食リハニュース」発行

- 第1巻14号 平成23年5月30日発行
特集：第8回研修会での研修報告会の内容
- 第1巻15号 平成23年8月16日発行
特集：情報提供書に関するアンケート結果
認知症と嚥下（パート1）
- 第1巻16号 平成23年12月20日発行
特集：第9回食リハ研修会での状況報告
認知症と嚥下（パート2）
- 第1巻17号 平成24年3月19日発行
特集：第9・10回食リハ研修会での研修報告会の内容



6. 大分県訪問リハ・通所リハ研究会活動報告

1. 会員の状況

会員数 260名

2. 地域リハ関連の活動・取り組み

1) 第12回研修会

日 時：平成23年6月26日（日）10:00～16:00

場 所：アステム大分

内 容：

(1) 基調講演

テーマ：「地域連携に貢献する訪問リハ・通所リハ」
～我々に求められるもの～

講 師：医療法人社団 寿量会 清雅苑リハビリテーション部
課長補佐 大久保智明

(2) シンポジウム

テーマ：「地域連携のあり方を考える」

シンポジスト：

①明和記念病院 理学療法士 高橋直之

②こうざきデイケア・リハビリセンター もみの木

理学療法士 川野剛士

③介護福祉サポートステーション けやき

主任介護支援専門員 石川貴之

④大分県 豊肥保健所 保健師 竹永祐子

(3) ミニレクチャー

テーマ：「リスク管理に必要なフィジカルアセスメント」
～全身状態を把握するポイント～

講 師：湯布院厚生年金病院 副院長 井上龍誠

参加者：89名

2) 第13回研修会

メインテーマ：「生活力を高めるための評価」

日 時：平成23年12月18日（日） 10:00～14:30

場 所：別府B-Conプラザ 3F 小会議室31

内 容：

(1) 講演 テーマ：「利用者の生活力を高めるための

評価と効果判定のポイント」

講 師：医療法人おもと会 大浜第一病院

訪問リハビリセンターあめくの杜

訪問リハビリテーション科長 宇田 薫

(全国訪問リハビリテーション研究会 理事)

(2) ミニレクチャー

当研究会版10か条第10項“接遇能力を高めよう”に対するレクチャー

テーマ：「訪問リハ・通所リハ従事者のマナー」

講 師：講演と同じ

(3) 訪問リハビリテーション アンケート調査 報告

(4) 一般演題

①当訪問リハにおける利用者アンケート調査

湯布院厚生年金在宅総合ケアセンター “ムーミン”

理学療法士 松尾 理

②訪問リハビリの実際 ～生活活発への取り組み～

訪問看護ステーション いずみ 作業療法士 幸 洋介

③訪問リハビリテーションの充実を目指して

臼杵市医師会訪問看護ステーション コスモス

理学療法士 兵頭達也

④Balanced Scorecardを導入して ～業務改善への取り組み～

明和記念病院 訪問リハビリテーション 作業療法士 矢野豊久

⑤通所リハ利用者における利用目的と利用満足度の検討

～利用者アンケート調査より～

湯布院厚生年金在宅総合ケアセンター “ムーミン”

理学療法士 永徳研二

⑥自律した生活を目指して ～「あおぞら」の取り組みを通じて～

別府リハビリテーションセンター 通所リハあおぞら

作業療法士 浅野なるみ

⑦通所リハビリテーションにおける障がい者スポーツ導入とその効果

別府リハビリテーションセンター 通所リハあおぞら

介護福祉士 高月広明

参加者：67名

3) 訪問リハ部門 第2回勉強会

日 時：平成23年9月15日（木） 19：00～20：30

場 所：大分リハビリテーション専門学校

内 容：テーマ「在宅における呼吸の診かた」

参加者：22名

4) 通所リハ部門 第1回勉強会

日 時：平成23年10月21日（金） 19：00～20：30

場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ アイネス 大会議室

内 容：テーマ「各事業所の特徴や課題を知り、日々の業務に活かそう」

参加者：46名

3. 調査・研究

訪問リハビリテーション実態調査

目 的：介護支援専門員に対し、訪問リハサービスの計画状況及び認識の状況等を調査し、今後の訪問リハの普及・啓発につなげる。

対 象：県内居宅介護支援事業所 407施設 回収率：245施設（60.2%）

報 告：本研究会 第12回研修会にて報告

4. その他：他団体との連携

「平成23年度全国訪問リハビリテーション研究会現場リーダー研修会」共催

日 時：平成24年1月14日（土）・15日（日）

場 所：別府ビーコンプラザ 中会議室

内 容：本研修会は、訪問リハ事業所における「主任」「サービス提供責任」を対象に、管理者（経営者ではなく）の実務が行える人材を育成することと、「現場スタッフの教育・管理」「部門における財政管理と労務管理」「他職種事業所との連携」など日常業務に即した内容の研修を目的に開催された。

参加者：101名

5. 地域リハ活動における今後の展開

全国的にも地域リハ活動が盛んな県下にあつて、生活期のリハビリを支える通所リハ・訪問リハの資質向上に貢献することと、平成23年度の実態調査で明らかになった課題解決に向け、更なる普及啓発活動を実施していくことが我々の役割と考えている。また、医療と介護の連携強化が求められる現状において、訪問リハと通所リハは生活期の介護サービスとの連携強化にこれまでも努めてきたが、自立支援型のケアプランをこれまで以上に実践するためにも、研修会活動や実態調査などを通じて、会員の資質向上を図ることと、地域関係者に対する知識・技術の提供が急務であると考えている。



第12回研修会



第13回研修会

7. 大分県地域リハ調整者・地域リハ協力員連絡協議会活動報告

H17年11月に結成された本連絡協議会はH24年1月末現在、会員数120名となり、今年度1回スキルアップ研修会を開催した。

○H23年度スキルアップ研修会

～地域リハ調整者・地域リハ協力員が地域でコーディネーターになるために～

日 時：H24年1月21日(土) 13:20～16:00

場 所：大分市植田市民行政センター 大会議室

共 催：大分県リハビリテーション支援センター
大分県健康対策課

内 容：

講演「大分県で地域包括ケアを実現するために

～コーディネーターの役割とは～」

講 師：兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター

リハビリテーション科 逢坂悟郎

報告「大分県の地域リハ調整者・協力員の活動事例報告」

報告者：大分県地域リハ調整者・地域リハ協力員連絡協議会 稲積幸子

意見交換

「地域リハ調整者・地域リハ協力員が地域でコーディネーターになるために」

参加者：49名



資料 1

H23 年度地域リハ調整者・地域リハ協力員養成研修

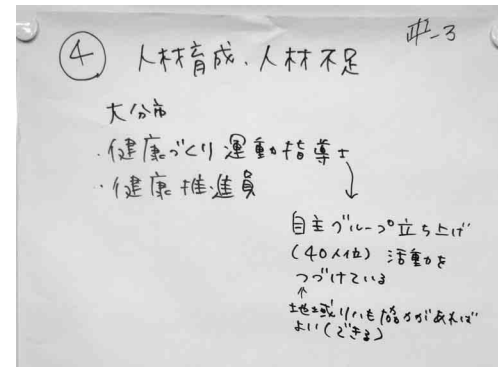
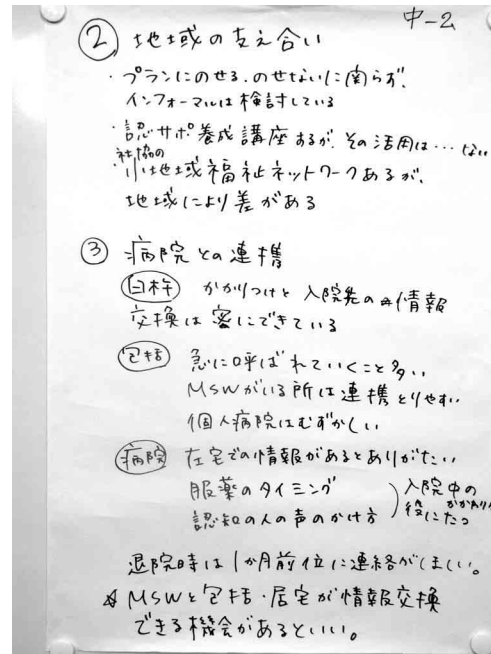
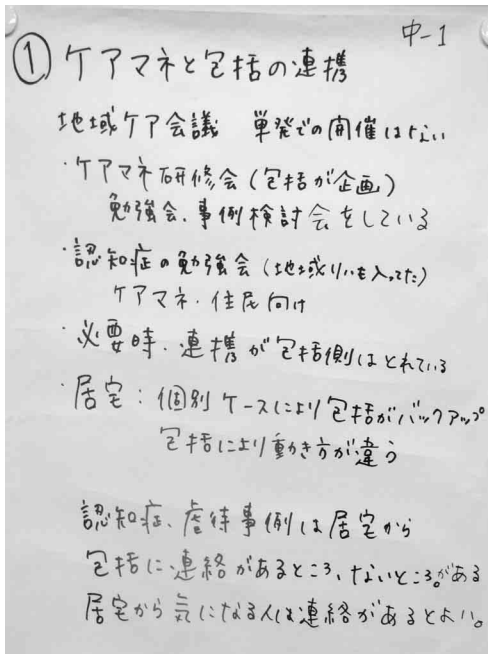
2 日目グループワークのまとめ

(平成 23 年 9 月 21 日開催 場所：湯布院厚生年金病院)

県リハセンター主催の地域リハ調整者・地域リハ協力員養成研修は第 8 回目を迎える。今年度受講生は 23 名である。今回は、昨年度に引き続き受講生に加え各地域で地域リハビリテーション活動を担う立場となる保健所、広域支援センター、居宅介護支援事業所から助言協力者として養成研修に参加して頂いた。グループワーク（グループ分けは、地域を考慮して、1 グループ 8～11 名の 4 グループとした）では、各地域でグループを編成し地域の医療・介護の提供体制の現状を整理し、課題解決やシステムの充実のために必要な取り組みを協議した。

以下にテーマごとに協議した内容を整理する。

中部圏域 大分地域



① ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）と地域包括支援センターとの連携について

1. 連携はとれていますか？

- ・ 必要時には連携がとれている。
- ・ 居宅介護支援事業所の個別ケースに包括がバックアップしている。しかし、包括によって働きかけが異なる。

- ・認知症や虐待事例は、居宅から包括へ相談がある所と無い所がある。
- ・居宅から気になる利用者がいれば連絡があるとよい。

2. 地域ケア会議は開催されていますか？ それはどこが担当していますか？

- ・単発での開催はない。開催も活発ではない。
- ・頻度は区域により異なるが、ある地区では年2回は行っている。

3. 地区の地域包括支援センターが独自で取り組んでいる事業があれば、どのような内容ですか？

- ・大分市内の17か所の包括をブロックに分け、計画に沿って開催している。また、包括毎で独自の研修会も開催している。
- ・内容は、ケアマネジャーを対象とした研修会や勉強会、事例検討会である。
- ・広域支援センターも加わった、ケアマネジャー・住民向けの認知症の勉強会も開催している。

②地域の支え合いについて

知人や隣人以外の支援活動以外の活動があれば、どのような組織（機能）ですか？

- ・ケアプランに載せる、載せないに関わらずインフォーマルサービスは検討している。
- ・認知症サポーター養成講座があるが、その活用は不十分である。
- ・社協の「地域福祉ネットワーク」があるが、地域によりその機能と利用状況に差がある。

③病院（急性期・回復期の医療機関）と在宅担当者との連携について

連携の状況や課題を示して下さい。

（臼杵地区）かかりつけ医と入院先の情報交換は密にできている。

（包 括）・病院側から急に呼ばれ、病院に出向くことが多い。

- ・MSWが居る施設は連携をとり易い。

- ・個人病院は難しい。

（病 院）・（入院前の）在宅の情報があるとありがたい。服薬のタイミングや認知の方の声のかけ方などの情報があると、入院中の関わり方に役立つ。

（全 体）・退院時は1カ月前位に連絡が欲しい。

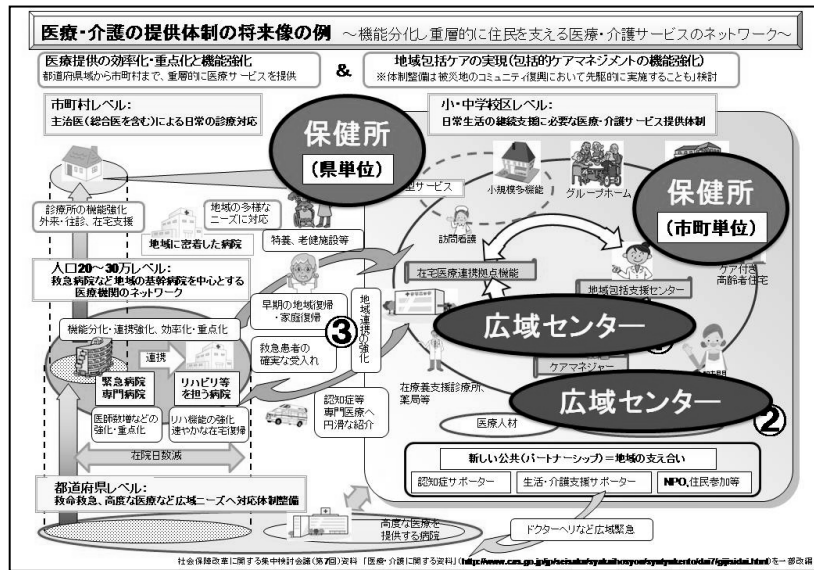
- ・MSWと包括・居宅が情報交換できる機会があるといい。

④その他

1. この図に“リハビリテーション広域支援センター”と“保健所”を加えるとしたら、どこに位置づけられますか？

- ・保健所は、市町単位と県単位で位置が異なる。広域も地域の特性により、小・中

学校区レベル内の外枠に入る場合もあるし、包括との連携で中に入ることもある。



2. 各地域から人材育成・人材不足などの声が聞かれます。このような声に対して、地域リハ支援体制の活動を通して、どのような支援・工夫ができますか？
 - ・大分市では、健康づくり運動指導士を通じて、40人位の自主グループを立ち上げ、活動を続けている。地域リハも協力があればよい（できる）
 - ・認知症サポート養成講習（オレンジリング講習？）も大分市で行っている。認知症の正しい理解を持ってもらい今後地域で活躍できるよう更なる工夫を検討している。オレンジリング講習は1回1時間半～2時間の内容でありキャラバンメイトでサポーターとして位置付けている。
 - ・大分市には健康運動指導士の養成もある。週1回3ヶ月間の研修を経て修了となる。大分市が認定し地区の公民館等で行う運動指導の講師になれる。

東部圏域 東国東地域・別杵速見地域

北部圏域 中津地域・宇佐高田地域

① 連携について ① 連携は? 東-北-1
 ケアマネ
 国東...連携はとれている(随時ケア会議が行われている)
 宇佐...市ごとケア会議できている(月1回) 広域...2月に1回
 高田...ルーチンには出ていない(2回程度)
 別杵速見...月1回ケア会議行っている(日出-町道管
 ケア会議: 広域センター出席 市道管 連携はとれている
 安心院...市・ケアマネとの会議がケア会議以外に行われている
 (包括バ中心とバ、バ) (市バ中心)
 ② 独自に取り組んでいることは?
 事例検討はケア会議で行っている
 速見-毎月講師による研修会
 安心院
 ケア会議にとりかわり
 ば、密に連携はとれている。

② 地域の支え合い 東-北-2
 民生委員 70歳以上
 ③ シルバ手帳(ポイント)高田 市に申請で発行
 施設での活動に付
 留守番
 HPに1人暮らしの方を連れて行く
 民生委員 包括支援センター(安心院)
 4地区で集まる(会議)
 災害時にどのようなように住民と把握(ケアマネの証など)
 できるような仕組み
 ④ 日の花会(食事とやらは作るほど、引寄せの防止)
 ⑤ 認知症予防の健康クラブ(市道管) 認知症に
 宇佐市...いろいろ健康サロン(車椅子編) カをいれている。

③ 病院による必要は方に対し、サービス担当者会議は行われている
 しかし、退院1日前に急に連絡があることもあり
 以前と比較し、連携はとれるようになってきた
 加算センターのように
 長期入院の場合、退院前に病院へケアマネ訪問
 共通のフォーマット作成(PCで入力できる) リハがある病院と
 担当者入院時のケアマネ情報提供の必要性... (No.1伝え 難関(20%)
 満院の対応、コミュニケーション 医療連携室
 ④ 地域での生活とつながる上でケアマネの病院への
 情報提供は必要
 ⑤ 1つの施設に顔見知りを作ろう!!

① ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）と地域包括支援センターとの連携について

1. 連携はとれていますか？

- ・情報のやり取りは地域できているが、地域差がある。

2. 地域ケア会議は開催されていますか？ それはどこが担当していますか？

(国東地区) 連携は取れている。随時、ケア会議が行われている。

(高田地区) ルーチンには出ていない(2回程度)

(宇佐地区) 開催できている(市：月1回、広域2月に1回)

(別杵・速見地区)・月1回開催している。日出町は町営、杵築市は市の運営で、会議には出ていないが連絡はとれている。

- ・広域支援センターも参加し、行政の参加もある。

(安心院地区) 市・ケアマネジャーとの会議がケア会議以外に行われている。

3. 地区の地域包括支援センターが独自に取り組んでいる事業があれば、どのような内容ですか？

- ・事例検討はケア会議で行っている。
 (速見地区) 毎月、講師を呼んで研修会を開催している。
 (安心院地区) ケア会議にとらわれなければ、密に連携はとれている。

②地域の支え合いについて

知人や隣人以外の支援活動以外の活動があれば、どのような組織(機能)ですか？

(高田地区) 70歳以上を対象に、市に申請する事でシルバー手帳を発行している。これはポイント制で、施設でのオムツたたみや留守番、病院に一人暮らしの方を連れていくなどでポイントとなる。このポイントは商店街での買い物に使える。

(安心院地区)・民生委員や包括が、地区での会議を通じて住民が集まるようにしている。その際、災害時に活用できるように台帳を作成し、住民の把握やケアマネジャーが分かるようにしている。

- ・「なの花会」: 食事を皆で作るなどのひきこもり予防をしている。
- ・認知症予防の「健康クラブ」(社協)

(宇佐地区) 認知症予防の「いきいき健康サロン」の設置・開催

③病院(急性期・回復期の医療機関)と在宅担当者との連携について

連携の状況や課題を示して下さい。

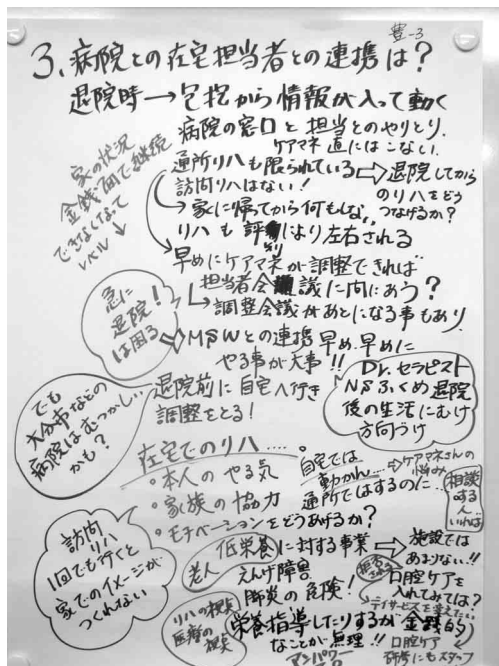
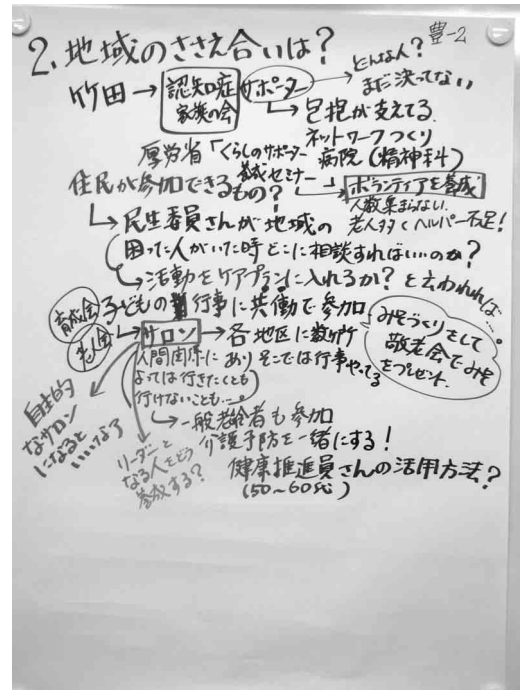
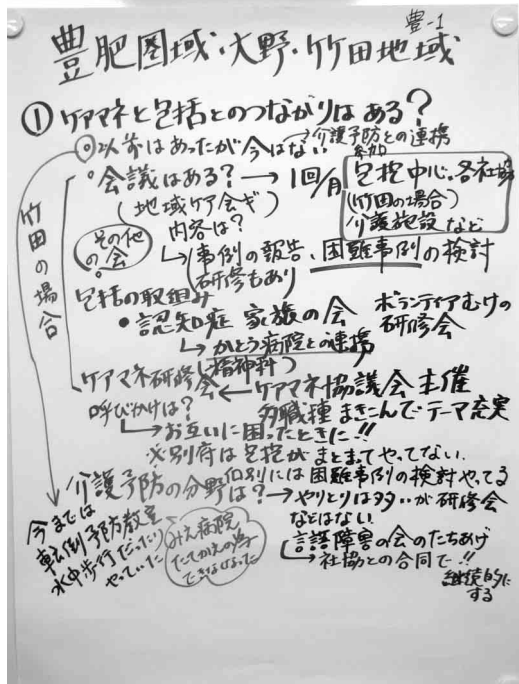
- ・病院によって、必要な方に対しサービス担当者会議は行われている。しかし、退院1日前などに急に連絡があり困る。
- ・以前と比較し、連携はとれるようになった。
- ・加算が取れるようになったこともある。
- ・長期入院の場合、退院前に病院へケアマネジャーが訪問している。
- ・情報提供の際に用いる共通のフォーマット(PC入力可)を作成した。
- ・国東市では、ケアマネジャーから病院へ情報提供出来るよう共通の書式が完成した。実際に使用し効果検証は出来ていないが、今後徐々に稼働していく見込み。
- ・担当者が入院した際、ケアマネジャーからの情報提供の必要性を感じる。
- ・リハのある病院と無い病院では、ケアマネジャーからの情報の活用に温度差がある。
- ・病院の対応、連携室の有無にも影響される。
- ・日頃からケアマネジャーが病院に顔を出すなどコミュニケーションに心掛けることは大切である。
- ・地域での生活を捉える上でケアマネジャーからの病院への情報提供は必要。
- ・施設に顔見知りを作ることで連携をとりやすくなるのではないか。

④その他

1. この図に“リハビリテーション広域支援センター”と“保健所”を加えたとしたら、どこに位置づけますか？

- ・保健所は、全体に関わっているのでこの位置づけにした。

豊肥圏域 大野地域・竹田地域



※竹田地区を中心とした報告。

① ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）と地域包括支援センターとの連携について

1. 連携はとれていますか？

- ・とれている

2. 地域ケア会議は開催されていますか？ それはどこが担当していますか？

(竹田地区)・月1回、包括を中心に各社協が介護施設で開催している。

- ・会議の内容は、事例報告、困難事例の検討、研修

3. 地区の地域包括支援センターが独自に取り組んでいる事業活動があれば、どのような内容ですか？

(竹田地区)・認知症(加藤病院と連携)、家族の会、ボランティア向け研修会

- ・ケアマネジャー協議会主催の研修会を開催しており、多職種を巻き込みテーマも充実している。
- ・介護予防分野は、やり取りは多いが研修会などはない、社協と合同で言語障害の会を立ち上げた。継続的にする。

(大野地区)今までは水中歩行などをテーマに転倒予防教室を開催していた。

②地域の支え合いについて

知人や隣人以外の支援活動以外の活動があれば、どのような組織(機能)ですか？

(竹田地区)・「認知症家族の会」は、包括がサポーターを支えている

- ・ネットワークづくりをしている。
- ・厚労省の「くらしサポーター養成セミナー」にてボランティアを養成しているが、参加者少なく、老人が多く、ヘルパー不足である。
- ・民生委員が地域の困った人がいたと際に、どこに相談すればよいのか分からず、課題になっている。
- ・民生委員の活動をケアプランに入れるか? と言われれば…。
- ・「育生会」にて子ども行事に共働で参加している。みそづくりをして敬老会でみそをプレゼントしている。
- ・「老人会」では、各地区にサロンを設け、そこで行事をやっている。一般高齢者も参加し、介護予防を一緒にする。
- ・健康増進員さんの活用方法は?

(その他)・サロンはあるがサロン自体が高齢化している。

- ・サロンに来る人は、一般高齢者が中心。公民館で行うサロンは自分で来られる人で10~20程度が参加、社協で行うサロンは地域包括支援センターの抽出による対象者が参加している。後者は体操や何か作品を作る活動を行っている。

③病院(急性期・回復期の医療機関)と在宅担当者との連携について

連携の状況や課題を示して下さい。

- ・退院時は、包括から情報が入って動き出す。
- ・病院の窓口と担当とのやりとり、ケアマネジャーに直には来ない。
- ・通所リハも限られており、訪問リハはない。退院してからのリハをどう繋げるか。リハも評判により左右される。
- ・自宅生活のイメージがつきにくく、退院後月1回でも訪問リハの介入があると実際場面での生活で指導や工夫が検討できる。

→3ヶ月以内のリハ介入は極めて大事、ここの意識がその後の生活を左右すると言

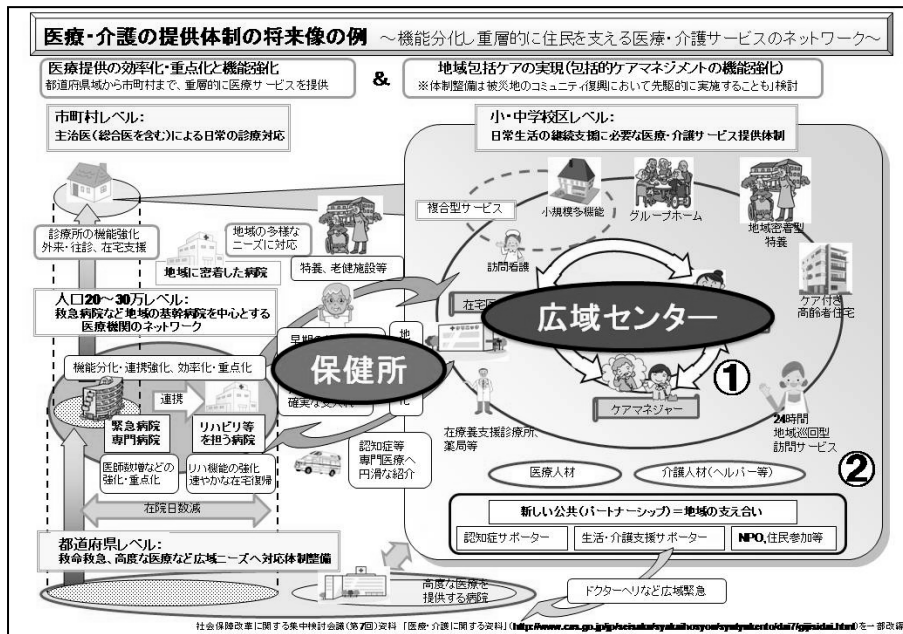
っても過言ではない。(院長談)

- ・患者は、家に帰ってから何もしない。
- ・ケアマネジャーが早めにリハの調整が出来れば、サービス担当者会議に間に合う？
- ・「急に退院！」は困る。MSW との連携を早め早めにやる事が大事。そこでは、Dr、セラピスト、Ns を含め、退院後の生活に向け方向づけする必要がある。
- ・退院前に自宅へ行き調整をとる。大分市の病院からでは難しい。
- ・「在宅でのリハ」では、本人のやる気、家族の協力、モチベーションをどう上げるかが課題となる。
- ・“通所ではするのに自宅では動かない” ケアマネジャーの悩みである。
- ・老人の低栄養に関する事業が必要。施設ではあまりしていない。
- ・リハの視点、医療の視点で嚥下障害や肺炎の危険性を伝えて欲しい。この対策として口腔ケアを入れてみてはどうか。デイサービスを変えたい。口腔ケア研修にもスタッフを行かせたい。
- ・栄養指導したりするが、金銭的なことが無理。

④その他

1. この図に“リハビリテーション広域支援センター”と“保健所”を加えるとしたら、どこに位置づけますか？

- ・保健所は、この位置でつながりをつくる。
- ・広域は、この中に入って調整を行う。

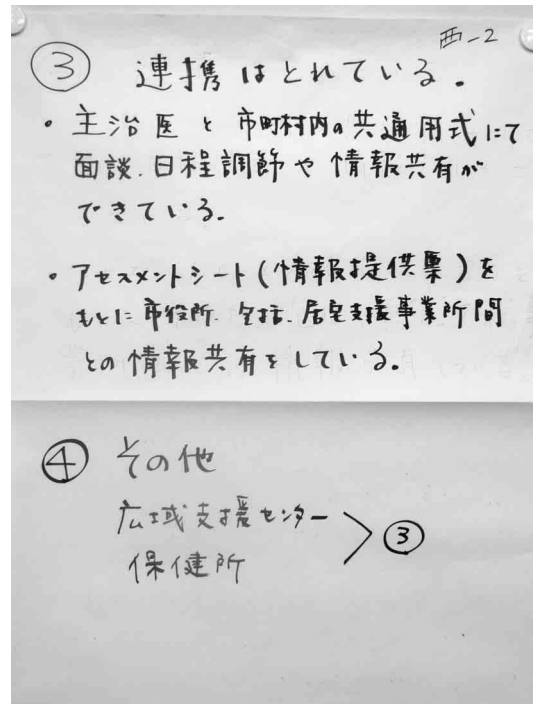
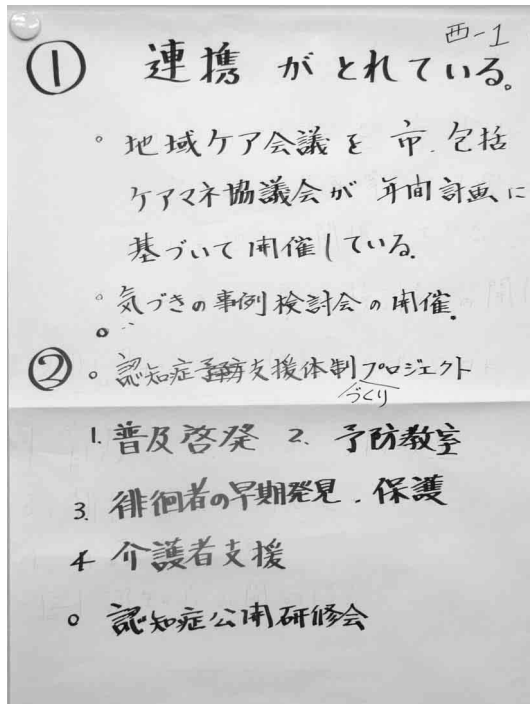


2. 各地域から人材育成・人材不足などの声が聞かれます。このような声に対して、地域リハ支援体制の活動を通して、どのような支援・工夫ができますか？

- ・口腔ケアは人材不足で事業所ごとに指導する関わりの方が効果は大きいと思う。
- ・口腔ケアは人材不足から対応には消極的な事業所は多い。事業所を巻き込むためにも「なぜ行わなければならないのか」「行う事でどのような効果が得られるのか」

等目的や成果を具体的に示し共有する必要がある。単に促すだけでは手間を理由に対応はしてくれない。体験を通して有効性を実感させる必要がある。

西部圏域 日田玖珠地域



※日田地区での報告。

①ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）と地域包括支援センターとの連携について

1. 連携はとれていますか？

- ・とれている。
- ・その理由は、一つは、事例を通して随時開催している、次に②で説明する「認知症対策」を通して、民生委員や自治体、公務員、地域の方が参加する会議を行っている。ここでは地域の分析もしており、広い意味で行っている。

2. 地域ケア会議は開催されていますか？ それはどこが担当していますか？

- ・地域ケア会議を市・包括・ケアマネジャー協議会、保健所が年間計画に基づいて開催している。

3. 地区の地域包括支援センターが独自に取り組んでいる事業があれば、どのような内容ですか？

- ・「気づきの事例検討会」を月2回（昼・夜1回ずつ）開催し、思いに気づき知らされる事で事例を振り返る機会を持っている。介護支援専門員協会を中心に包

括との連携は取れていると思う。

②地域の支え合いについて

知人や隣人以外の支援活動以外の活動があれば、どのような組織（機能）ですか？

- ・「認知症支援体制づくりプロジェクト」がある。このプロジェクトには4つのワーキンググループがあり、部門毎で会議を開催している。
- ・このプロジェクトは、5年目を迎え、セルフチェックも加わり5本柱（以下に示す）で取り組みを展開している。市が中心となって包括職員がそれぞれの柱に入りこんでいる。主任ケアマネジャーの業務量は多いが積極的な活動を行っている。

1) 普及啓発

公民館や施設などで認知症に対する理解等をテーマに「劇団 あやめ」による寸劇が月1回ペースで行われている。

2) 介護予防

- ・「スズメ学校」がこれにあたる。最初はある地区で自然発生的に“助け合わなければ”という思いから始まったが、公民館での取り組みが全市に広がりを見せている。
- ・手順は、公民館単位で受講生を募集し、半年かけて指導者を養成する。
- ・必要経費は市が支出しているが、残りは自主運営である。
- ・住民が主体になるようにしている。

3) 徘徊者の早期発見・保護

- ・徘徊者が非常に増えている。
- ・警察署、有線放送、消防署に連絡するフローチャートを作成し、これをケアマネに紹介している。また、ケアマネから対象者の家族に紹介するなど、どんどん支援の輪が広がっている。
- ・包括が中心となって警察官や消防団にも説明している。

4) 介護者支援

- ・健康づくりリーダーが存在し、生きがいデイやサロンでの体操に関わっている。「高校3年生」の歌に合わせて指導を行っている。
- ・介護者の相談を出前形式で、公民館に出向いて開催している。
- ・医師会の許可をもらって、認知症のセルフチェック用紙を作成した。

5) 認知症公開研修

- ・これらの取り組みは、地域の方々を巻き込んだ、高齢者に目を向ける新しい手段となっていると思う。

③病院（急性期・回復期の医療機関）と在宅担当者との連携について

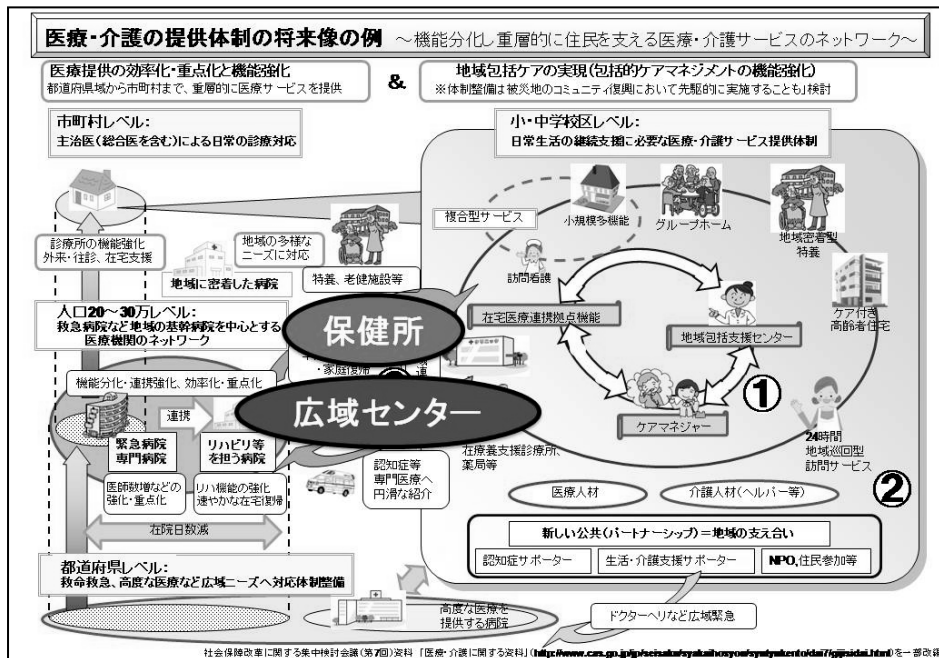
連携の状況や課題を示して下さい。

- ・主治医と市町村内の共通様式にて面談、日程調整や情報共有ができています。
- ・アセスメントを基に市役所、包括、居宅介護支援事業所間との情報共有をしています。

④その他

1. この図に“リハビリテーション広域支援センター”と“保健所”を加えるとしたら、どこに位置づけますか？

- ・希望と期待を含め、中心に置く



2. 各地域から人材育成・人材不足などの声が聞かれます。このような声に対して、地域リハ支援体制の活動を通して、どのような支援・工夫ができますか？

- ・「すずめの学校」等の活動を通して、人材発掘している。
- ・課題に対しては、広域との連携をとって互いを知っていくことである。ケアマネジャー側も広域支援センターの機能を知らない。広域支援センター側も対応できる内容を示して欲しい。

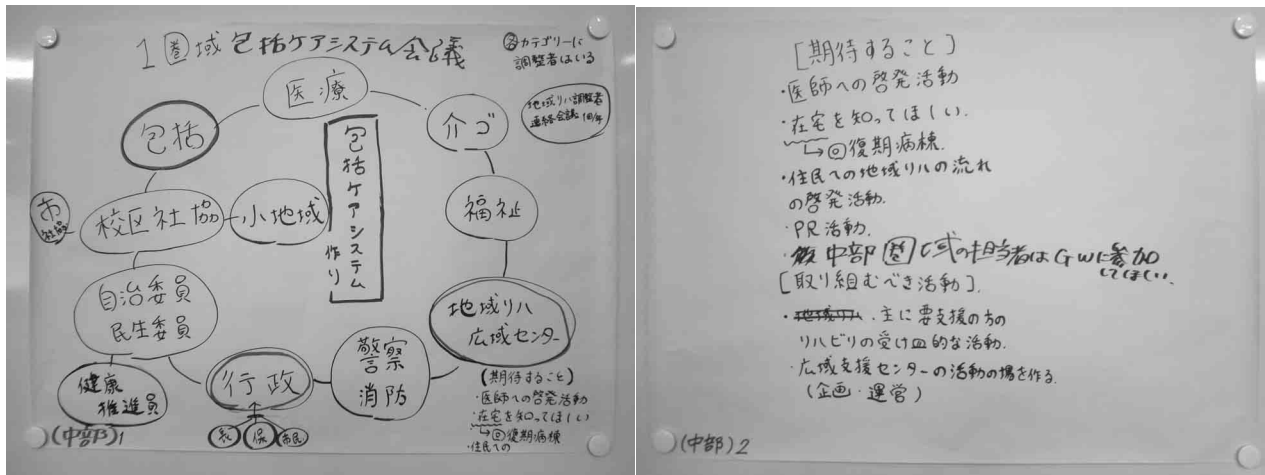
資料 2

H23 年度地域リハ調整者・地域リハ協力員養成研修

3 日目グループワークのまとめ

(平成 23 年 11 月 16 日開催 場所：湯布院厚生年金病院)

中部圏域大分地域



課題Ⅰ：広域支援センター、地域包括支援センター、保健所、社協、地域リハ調整者・協力員の連携、或いは協力のモデル図を作成して下さい。

1. 住民の上に地域のネットワークがあるという考え方である。行政との連携も必要である。
2. 大分市では17箇所それぞれの地域包括支援センターが地域ネットワーク会議を開催しており（年2回程度）、その参加機関の理想も含めモデル図を作成した。

課題Ⅱ：皆さんが期待するリハビリテーション広域支援センターの活動を記載して下さい。

1. 医師へ啓発活動をしてほしい。
2. 住宅改修時等、実際の暮らしをイメージできるとスムーズに進むと考えている。回復期病棟の担当者が在宅の生活を知ってもらえる様に啓発してほしい。
3. 住民へ地域リハの流れを説明してほしい。
4. リハが実際、今何ができるかを調整者や協力員にPRしてもらいたい。

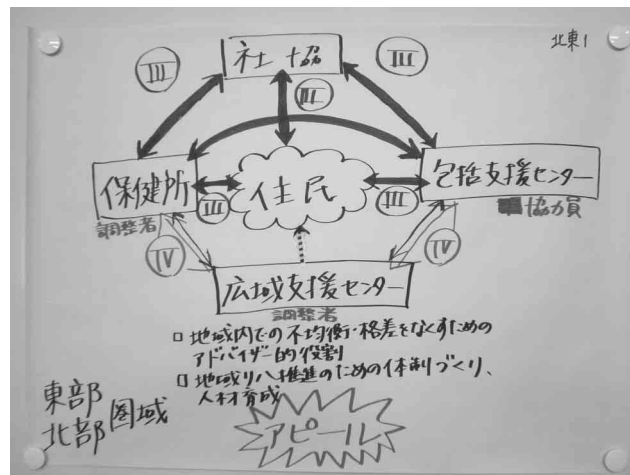
課題Ⅲ：地域リハ調整者・協力員として、今取り組んでいる具体的活動を記載して下さい。

1. 保健師が中心となり介護予防教室を開催した（3回/年）。
2. 講演会（居宅・デイ・ヘルパー・福祉用具取扱業者などを対象）を開催した。
3. 地域リハの研修会をきっかけとしてネットワークを作ることができた。
4. 昨年度より「認知症のネットワーク」作りに参加してもらっている。

課題Ⅳ：地域リハ調整者・協力員として、今後取り組むべき活動を記載して下さい。

1. サービス利用頻度が少ない要支援者に対し、機能維持を目的とした活動（自主グループの活動）をサポートする。
2. 住民に対し、介護予防教室や転倒予防教室など、広域支援センター主催の活動を提供する。

東部圏域東国東・別杵速見地域、北部圏域中津・宇佐高田地域



課題Ⅰ：広域支援センター、地域包括支援センター、保健所、社協、地域リハ調整者・協力員の連携、或いは協力のモデル図を作成して下さい。

1. 住民・社協・保健所・地域包括支援センター間では密な連携は取れているが、広域支援センターとの連携は薄い状態である。

課題Ⅱ：皆さんが期待するリハビリテーション広域支援センターの活動を記載して下さい。

1. 保健所や地域包括支援センターが主催する会議へ出席し、リハの視点を持ったアドバイザー的役割で発言をしてほしい。
2. 地域リハ推進の為の体制作り（地域でリハが行えない人に対し、どこに行ってもリハが行えるような環境・マネジメント）、人材育成（リハスタッフのレベルアップ）を行ってほしい。

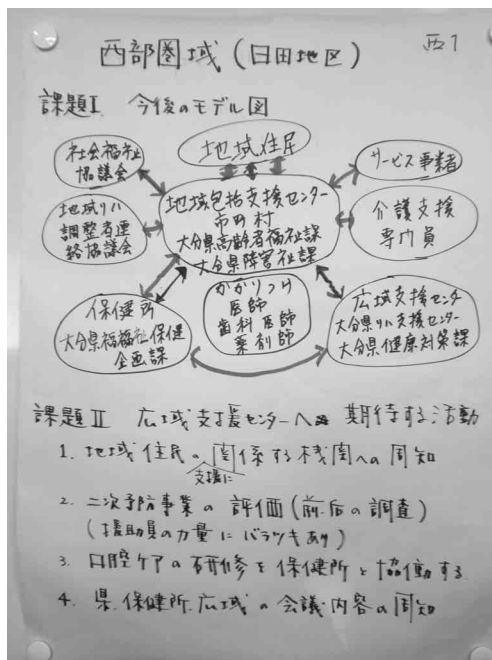
課題Ⅲ：地域リハ調整者・協力員として、今取り組んでいる具体的活動を記載して下さい。

1. 住民からの相談を地域リハの視点にたって、適材適所に情報を流し、必要なサービスに繋げている。

課題Ⅳ：地域リハ調整者・協力員として、今後取り組むべき活動を記載して下さい。

1. 広域支援センターだけではなく、他機関の調整者・協力員とも協力し広域支援センターの活動をアピールする。
2. 他機関との連携を密にする。

西部圏域日田玖珠地域



課題IV 調整者・協力員への期待活動 西2

1. 協力員の名簿作成
2. 組織化ができればどうにとり組む

課題I：広域支援センター、地域包括支援センター、保健所、社協、地域リハ調整者・協力員の連携、或いは協力のモデル図を作成して下さい。

1. 市や地域包括支援センターが地域住民の窓口となり、全ての機関と双方向からの連携が取れるような体制を作る様、このモデル図を作成した。

課題II：皆さんが期待するリハビリテーション広域支援センターの活動を記載して下さい。

1. 地域住民の支援に関係する機関に対し、“広域支援センターがどんな活動をしているか”、“具体的にどのようなことができるか”を周知してほしい。
2. 現在、二次的予防事業において援助員の力量により内容にばらつきがある。その対策としてリハの要素（身体機能測定や評価など）を取り入れる等のリハ知識、技術の充実を図ってほしい。
3. 口腔ケアや摂食・嚥下のニーズは高く、研修も実施している。しかし、広域支援センターと保健所で分かれて開催しており、内容が似か寄る事もある。今後は、双方が協力し研修を開催してはどうか。
4. 三者会議でどのような内容が話されているか周知してほしい。

課題III：地域リハ調整者・協力員として、今取り組んでいる具体的活動を記載して下さい。

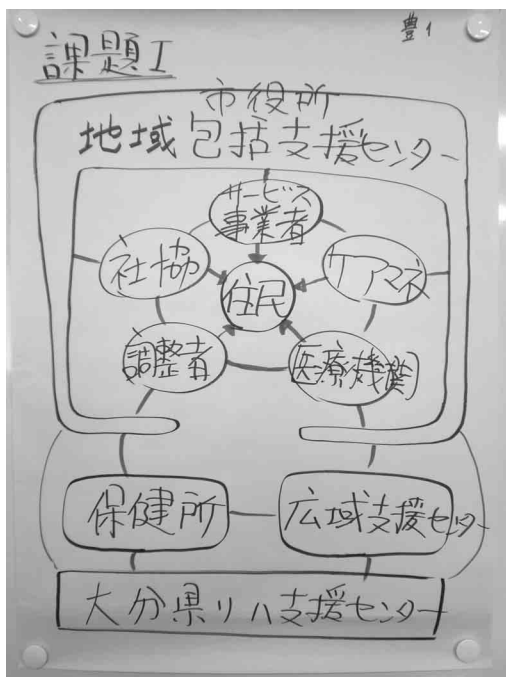
1. ミニデイ、サロンの情報が不足している為、社協に情報を求めた。
2. 月2回、公民館などで健康講話や認知症予防の脳トレや健康リーダーを招き、「日田リズム体操」を行っている。
3. 保健師会議で地域保健課と話し合い、各々の活動内容を知り、今後の連携について話し合った。

4. 前津江で健康講話（お元気会）を開催した。
5. 意見交換会は1年に2～3回程度実施している。
6. 地域で問題を解決できるように地域住民と話し合いの場を持っている。地域作りを行っている。

課題Ⅳ：地域リハ調整者・協力員として、今後取り組むべき活動を記載して下さい。

1. 調整者・協力員が実際に何をして良いか分からない為、西部圏域内で調整者・協力員の名簿を作成し、組織を作り、集まって話す場を設けたい。

豊肥圏域大野・竹田地域



課題Ⅱ 豊2

問題点として…

- ① 病院—ケアマネとの連携がうまく行っていない事が多い。
⇒ 顔合わせの機会が持てる様に啓発と行ったり、連携が取りやすくなる様な研修会の開催
- ② 脳卒中等で退院後に在宅に戻った時に、リハビリの介入がないとレベルが低下していく事が多い。
⇒ 事業所へのリハビリの視点を取入れた指導を行うと良いのではないかと。
(個別の指導ではなく、安全な歩行介助の方法やレベルが低下しない様な行動方法の指導をケアマネと良いと思う)

課題Ⅲ 豊3

- ・周知への啓発(ケアマネ、包括等)
- ・顔と見合わせの話し合い(担当者会議等)
- ・依頼があれば講師、市民センター、包括の会議への参加
- ・病院内での啓発、他職種との話し合い
- ・グループワーク等を行う時のリーダーとしての役割作り

課題Ⅳ

- ・もと顔と合わせて話し合い出来る機会と作る

課題Ⅰ：広域支援センター、地域包括支援センター、保健所、社協、地域リハ調整者・協力員の連携、或いは協力のモデル図を作成して下さい。

1. 住民を中心にそれぞれの機関が関わっている。地域包括支援センターは住民と密に関わっており、それぞれの機関とも連携をとっている。保健所・広域支援センター・県リハセンターは下から全体を支えるような働きをしている。

課題Ⅱ：皆さんが期待するリハビリテーション広域支援センターの活動を記載して下さい。

1. 医療と在宅の連携の円滑化を図ってほしい。
2. (サービス担当者会議等) 顔合わせの機会がもてるような啓発を行うことや、連携が取れる様な研修会を開催する等、それぞれの機関が顔見知りになり情報交換を行い易い環境作りをしてほしい。
3. 介護保険サービス内容に各事業所で違いがある為、リハの視点を持った関り方も取り入れる様、啓発してほしい。

課題Ⅲ：地域リハ調整者・協力員として、今取り組んでいる具体的活動を記載して下さい。

1. スキルアップ研修会の企画・運営・周囲への啓発。
2. 事業所ごとの顔合わせでの情報交換。
3. 講師として地域住民に対する研修会への参加。
4. 包括支援センターの会議への参加(情報交換)。
5. 調整者としてではないが、研修会でのグループワークのリーダーになり、保健所やケアマネの視点で意見を総括している。
6. 少ない資源の中でどのサービスを利用するか一緒に検討している。

課題Ⅳ：地域リハ調整者・協力員として、今後取り組むべき活動を記載して下さい。

1. もっと色々な人と顔を合わせ、話ができる機会を作ること。
2. 地域包括支援センター等の事業所の集まりに積極的に参加し、新しい情報を取り入れ現場で活かしていく事。

資料3

地域リハ調整者・地域リハ協力員 圏域別人数

地域名	市町村、保健所、広域支援センター名	H23年度	H22年度	H21年度	H20年度	H19年度	H17年度	H16年度	H15年度	合計
東国東	国東市	0	0	0	2	—	—	—	—	2
	国見町	—	—	—	—	0	1	0	0	1
	国東町	—	—	—	—	0	0	0	1	1
	武蔵町	—	—	—	—	1	0	1	0	2
	安岐町	—	—	—	—	0	0	0	0	0
	姫島村	0	1	0	0	0	1	0	0	2
	東部保健所国東保健部	0	0	0	0	—	—	—	—	0
	国東保健所	—	—	—	—	0	0	0	1	1
	国東市民病院	1	0	0	0	0	1	1	0	3
	国東市地域包括支援センター	0	1	0	0	0	—	—	—	1
別杵速見	別府市	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	杵築市	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	日出町	0	0	0	0	1	1	0	0	2
	東部保健所	0	0	0	0	—	—	—	—	0
	別府県民保健福祉センター	—	—	—	—	1	1	0	0	2
	別府県民保健福祉センター日出保健支所	—	—	—	—	1	0	0	0	1
	別府リハビリテーションセンター	1	0	1	1	1	1	1	1	7
	杵築市地域包括支援センター	0	0	0	1	0	—	—	—	1
	日出町地域包括支援センター	0	0	0	1	0	—	—	—	1
	泰生の里地域包括支援センター	0	0	1	0	0	—	—	—	1
	大分	大分市	1	1	1	4	2	0	1	0
由布市		0	0	0	0	0	0	1	1	2
中部保健所由布保健部		0	0	0	0	—	—	—	—	0
別府県民保健福祉センター由布保健支所		—	—	—	—	0	1	0	1	2
大分市保健所		0	0	0	0	0	0	1	0	1
井野辺病院		0	0	2	1	0	1	1	1	6
大分岡病院		0	0	1	1	0	1	1	1	5
上野ヶ丘・碩田地域包括支援センター		1	0	1	1	0	—	—	—	3
城南・賀来地域包括支援センター		1	0	0	1	0	—	—	—	2
城東地域包括支援センター		0	0	0	1	1	—	—	—	2
原川・鶴崎地域包括支援センター		0	1	0	2	0	—	—	—	3
明野地域包括支援センター		0	1	0	0	0	—	—	—	1
王子・大分西地域包括支援センター		0	2	0	0	0	—	—	—	2
大東・東陽地域包括支援センター		0	0	1	1	1	—	—	—	3
植田・植田西地域包括支援センター		1	1	0	0	4	—	—	—	6
植田南・植田東地域包括支援センター		—	—	0	1	2	—	—	—	3
植田東地域包括支援センター		1	1	1	—	—	—	—	—	3
植田南地域包括支援センター		0	1	1	—	—	—	—	—	2
植田西地域包括支援センター		0	0	1	—	—	—	—	—	1
竹中・判田地域包括支援センター		0	0	0	1	0	—	—	—	1
佐賀関・神崎地域包括支援センター		0	0	0	1	1	—	—	—	2
由布市地域包括支援センター庄内事務所		0	0	0	1	1	—	—	—	2
由布市地域包括支援センター挾間事務所	0	0	0	1	0	—	—	—	1	
由布市地域包括支援センター湯布院事務所	0	0	0	0	1	—	—	—	1	
臼津	臼杵市	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	津久見市	0	0	1	0	0	0	1	1	3
	中部保健所	0	0	1	0	—	—	—	—	1
	臼杵保健所	—	—	—	—	0	1	1	1	3
	臼杵市医師会立コスモス病院	0	2	0	2	2	1	1	1	9
	臼杵市地域包括支援センターコスモス	0	1	2	1	0	—	—	—	4
佐伯	佐伯市	0	3	1	0	2	2	2	2	12
	佐伯市上浦振興局	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	佐伯市米水津振興局	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	南部保健所	0	0	0	0	—	—	—	—	0
	佐伯県民保健福祉センター	—	—	—	—	1	1	1	1	4
	長門記念病院	0	0	0	0	0	1	1	1	3

大野	豊後大野市	0	0	0	0	0	1	0	3	4
	豊肥保健所	0	2	0	0	—	—	—	—	2
	大野県民保健福祉センター	—	—	—	—	1	1	1	1	4
	みえ病院	1	0	0	2	0	1	0	1	5
竹田	竹田市	0	1	0	0	0	1	0	3	5
	竹田保健所	—	—	—	—	0	1	1	1	3
	大久保病院	1	1	1	1	1	1	1	1	8
日田玖珠	日田市	0	0	0	0	0	0	1	2	3
	九重町	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	玖珠町	0	1	0	0	0	1	1	0	3
	西部保健所	1	1	0	0	—	—	—	—	2
	日田玖珠県民保健福祉センター	—	—	—	—	0	1	0	1	2
	大分県済生会日田病院	2	1	2	0	0	1	0	1	7
	日田市西部地域包括支援センター	1	0	0	1	0	—	—	—	2
	日田市南部地域包括支援センター	1	0	0	2	0	—	—	—	3
	日田市中央地域包括支援センター	1	0	2	2	0	—	—	—	5
	日田市東部地域包括支援センター	2	0	0	1	0	—	—	—	3
中津	中津市	0	0	0	0	0	1	0	2	3
	北部保健所	2	1	0	1	—	—	—	—	4
	中津保健所	—	—	—	—	1	1	0	1	3
	川瀧整形外科病院	0	0	0	0	0	1	1	1	3
	中津市地域包括支援センター	0	0	0	1	0	—	—	—	1
宇佐高田	宇佐市	0	0	0	0	1	1	2	2	6
	豊後高田市	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	北部保健所豊後高田保健部	0	0	0	0	—	—	—	—	0
	宇佐高田県民保健福祉センター宇佐保健部	—	—	—	—	0	1	0	1	2
	宇佐高田県民保健福祉センター豊後高田保健部	—	—	—	—	1	0	0	0	1
	介護老人保健施設清流荘	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	宇佐圏域地域包括支援センター	0	0	0	1	0	—	—	—	1
	安心院圏域地域包括支援センター	1	0	1	1	0	—	—	—	3
	院内圏域地域包括支援センター	0	0	0	0	1	—	—	—	1
	豊後高田市地域包括支援センター	0	2	2	0	0	—	—	—	4
県リハセンター	3	6	7	6	5	3	4	4	38	
計	23	32	34	48	37	34	31	40	279	

※H23年度末現在